©A²研究会

子どもと支援教育を支える
『個別の教育支援計画』

A²『個別の教育支援計画』ツール

エーツー

～概要と操作方法マニュアル～

A²研究会 事務局
岩山　カイナ

メニュー

１．「個別の教育支援計画」の役割と課題

２．Ａ²『個別の教育支援計画』ツールの特色

３．Ａ²『個別の教育支援計画』ツールの操作方法

４．学習指導要領の段階判定
　　カリキュラムマネジメントとしての活用

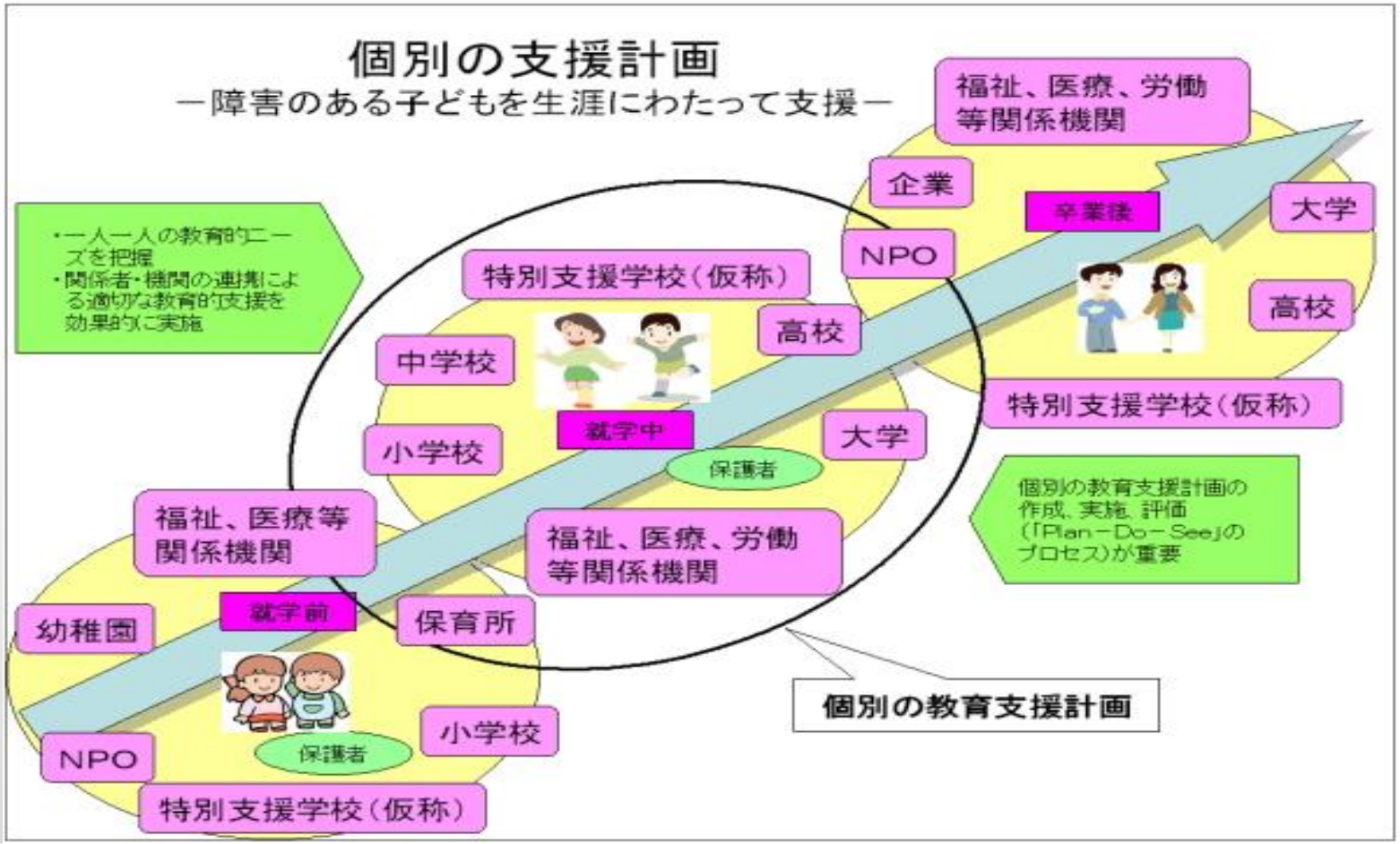
1.「個別の教育支援計画」の役割と課題

「個別の教育支援計画」

障害のある子ども一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えのもと、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育的支援を行うことを目的とする。

また、この教育的支援は、教育のみならず、福祉、医療、労働等の様々な側面からの取組が必要であり、関係機関、関係部局の密接な連携協力を確保することが不可欠である。

文部科学省HP
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/054/shiryo/attach/1361230.htm



出典：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
「個別の教育支援計画」の策定に関する実践的研究 17項（平成18年）

「個別の教育支援計画」は 特別支援教育・インクルーシブ教育の鍵

アメリカのIEP（Individual Education Plan）

　アメリカでは、子どものニーズに応じて、どのような配慮や支援を受けることが出来るのか、保護者が学校と契約を結びます。内容は、支援内容や方法のみでなく、カリキュラムの調整も含まれます。

　子どもの適切な教育・支援を受ける権利を守るために、IEPの内容が適切に実行されているかを監視する行政機関が、教育機関とは別に設置されています。

　また、IEPは、連動する客観的なアセスメントに基づくものである必要があるとされています。

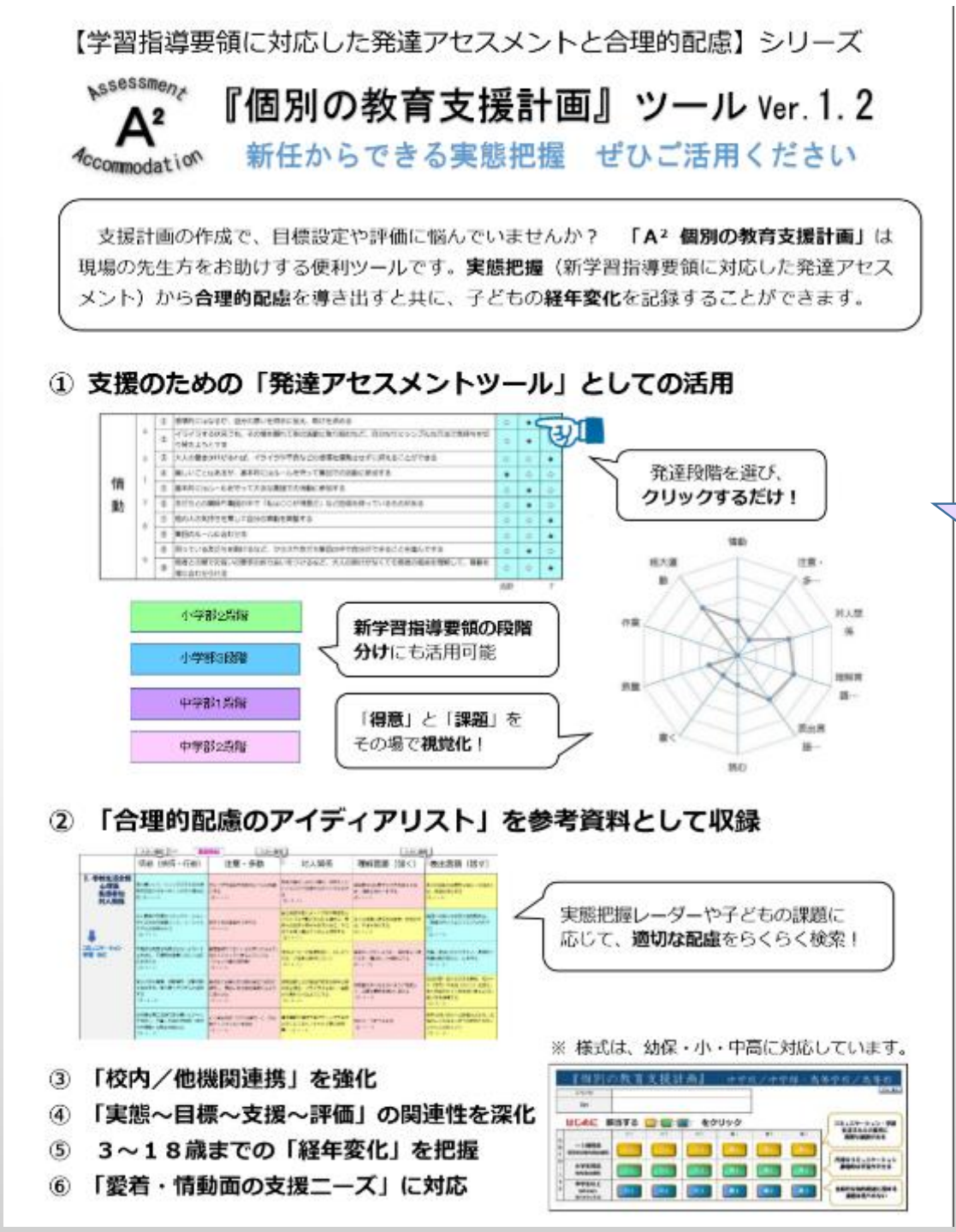
※インクルーシブ教育の場面では、より個々のニーズに注目しなければ、適切な教育を受けることができません

©A²研究会

エーツー

A²（Assessment and Accommodations）

様式を通じた課題解決と支援教育の充実



協力：
平成30年度～令和元年度
大阪教育委員会
　支援教育地域支援整備事業　大阪市ブロック
大阪府立支援学校、大阪市内幼稚園/小中学校

編集：A²研究会

A²『個別の教育支援計画』ツール開発の背景

<u>地域支援先の校園で見られる「個別の教育支援計画」の課題</u>

（１）作成する教員の力量で内容に大きな差

例）実態把握の根拠があいまい

「目標」「支援方法」「評価」の妥当性に問題

（２）経験の少ない教員が支援学級担当を担うことへの支援の必要性

（３）情動に課題のある幼児児童生徒への指導・支援に関する相談の多さ

２．Ａ²『個別の教育支援計画』ツールの特色

エーツー

A²（Assessment and Accommodations）

経験年数が少なくても作成しやすく、活用できる

（１）正しい実態把握ができて、学習指導要領の段階がわかる
（２）支援方法を考えるヒントがある
（３）合理的配慮を考えるヒントがある
（４）入力データを活用し指導・支援の経年変化を確認できる

2つのメイン機能

A²『個別の教育支援計画』ツール　特徴

日米の大学教授の協力の基に作成

① 【支援のための発達アセスメント】
- 学習指導要領の段階、自立活動の区分

② 【合理的配慮アイディアリスト 】
- ICFの視点の重視（社会参加への配慮）

③ 幼稚園・保育所／小学校（特別支援学校 小学部）／中学・高校（特別支援学校 中学部・高等部）多校種対応

④ 指導・支援の評価を経年で確認（3～18歳まで）

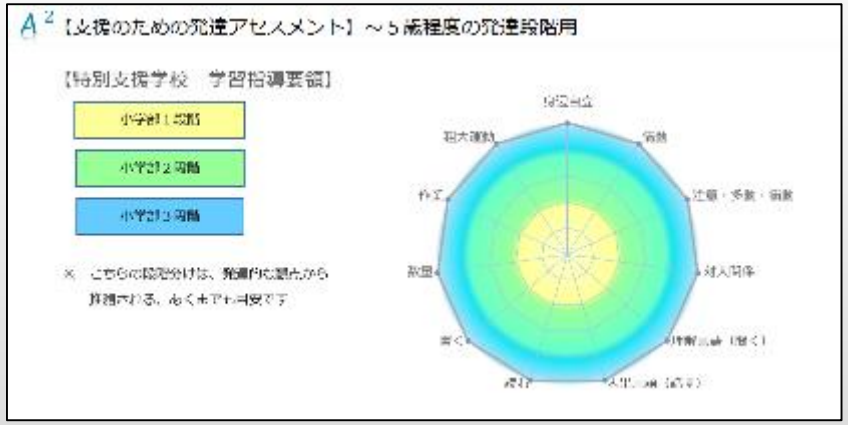
⑤ RTIモデルの活用と他機関連携

⑥ 情動面（行動/感情/情緒）の支援ニーズ考慮

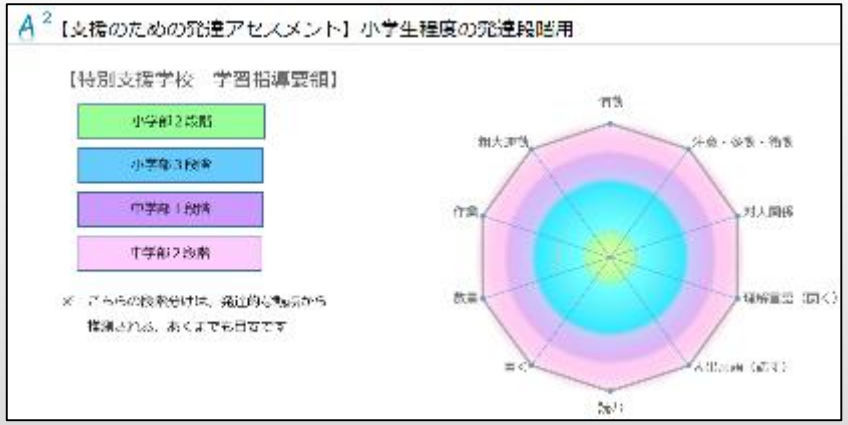
①　発達的観点と学習指導要領に対応した【支援のための発達アセスメント】

・学習指導要領の段階判定、自立活動の区分の記載

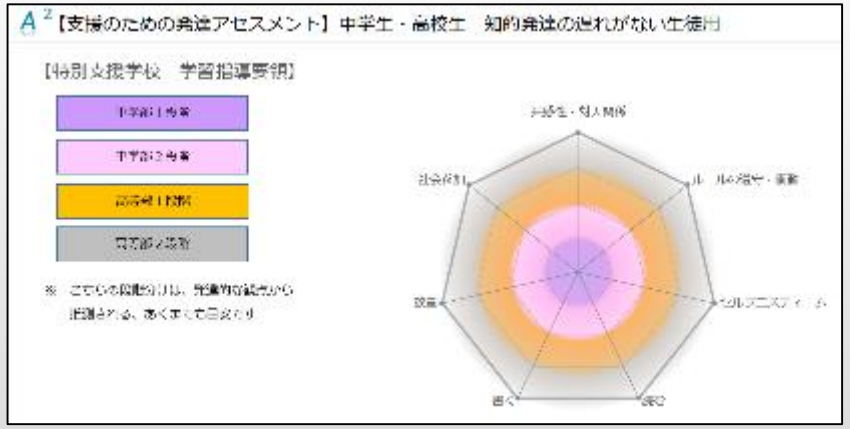
A²【支援のための発達アセスメント】（３種類）



0～5歳程度の知的発達



小学生程度の知的発達



１０歳以上の知的発達
（知的発達の遅れがない）

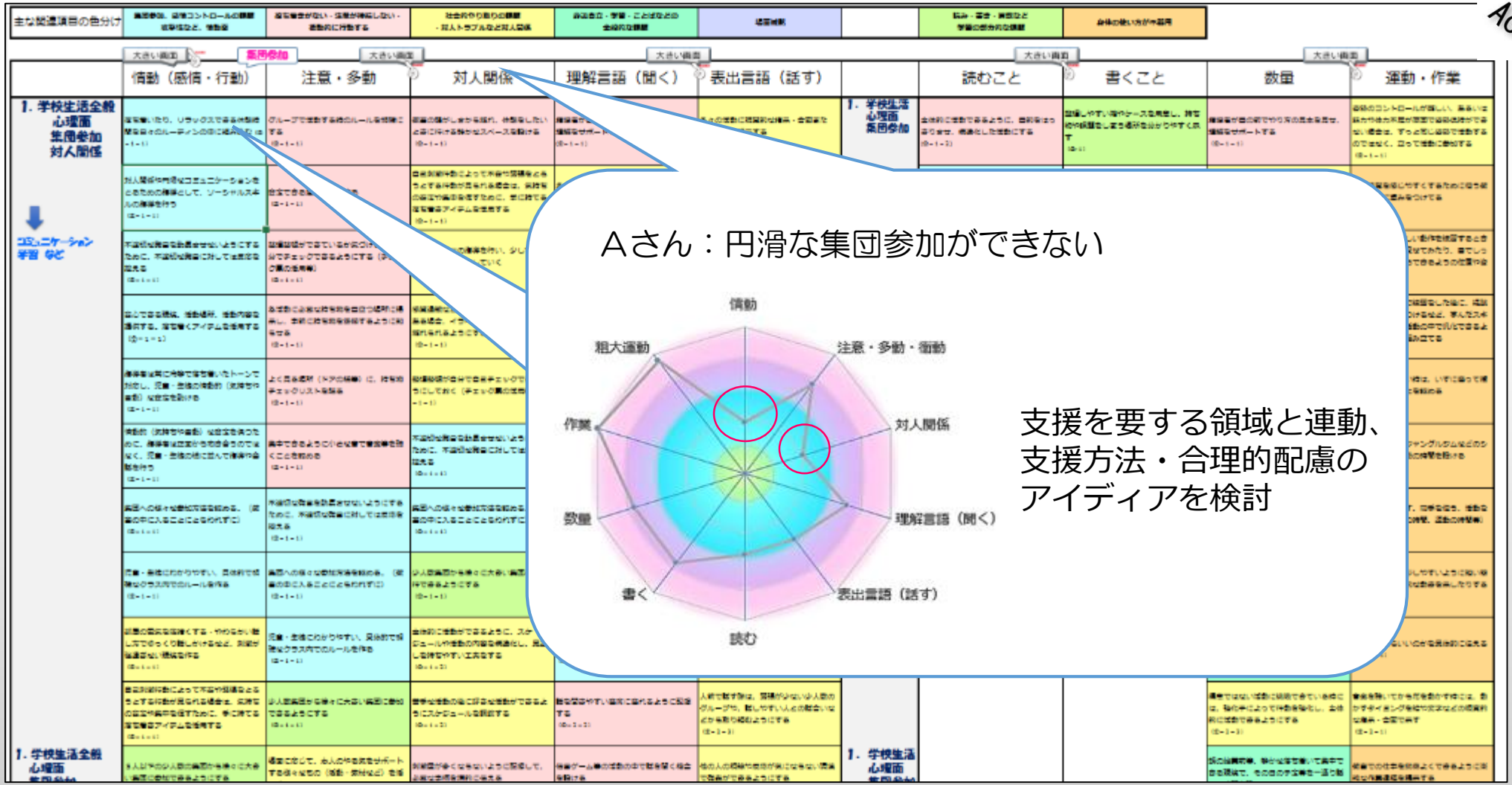
A²【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

©A²研究会

② ICFの視点と【合理的配慮アイディアリスト】

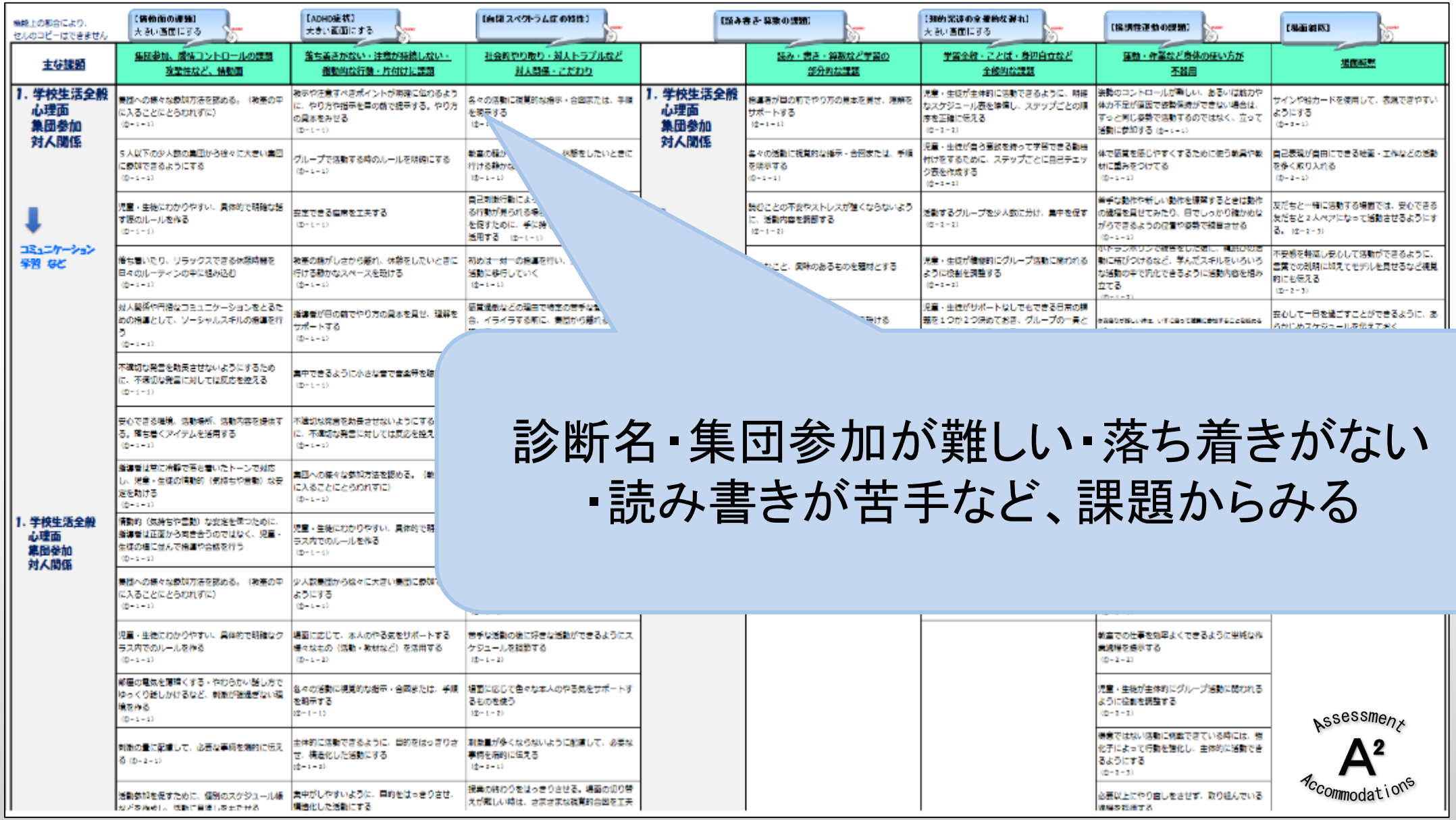
Assessment A² Accommodations

【合理的配慮などの支援方法アイディアリスト①】



©A²研究会

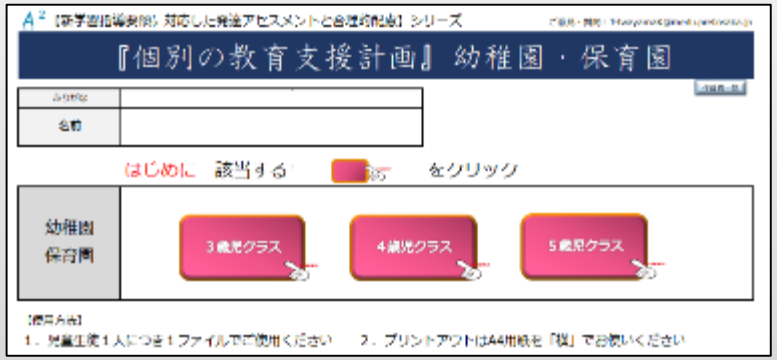
【合理的配慮などの支援方法アイディアリスト②】



③　多校種に対応

- 幼稚園・保育所
- 小学校（小学部）
- 中学・高校（中学部・高等部）

幼稚園・保育園



小学校・特別支援学校（小学部）

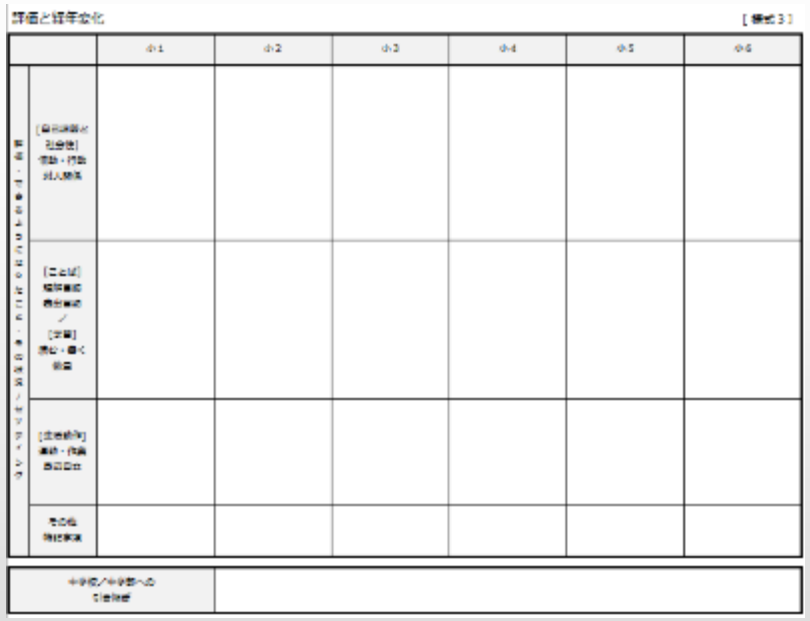
中学・高校
特別支援学校（中学・高等部）

A²【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

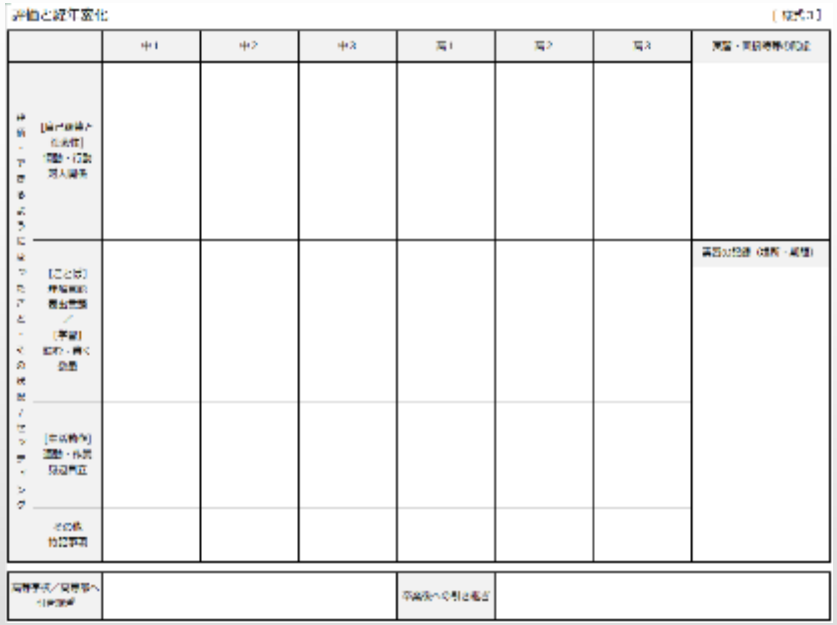
④　指導・支援の評価を経年で確認（3～18歳）

幼稚園・保育園

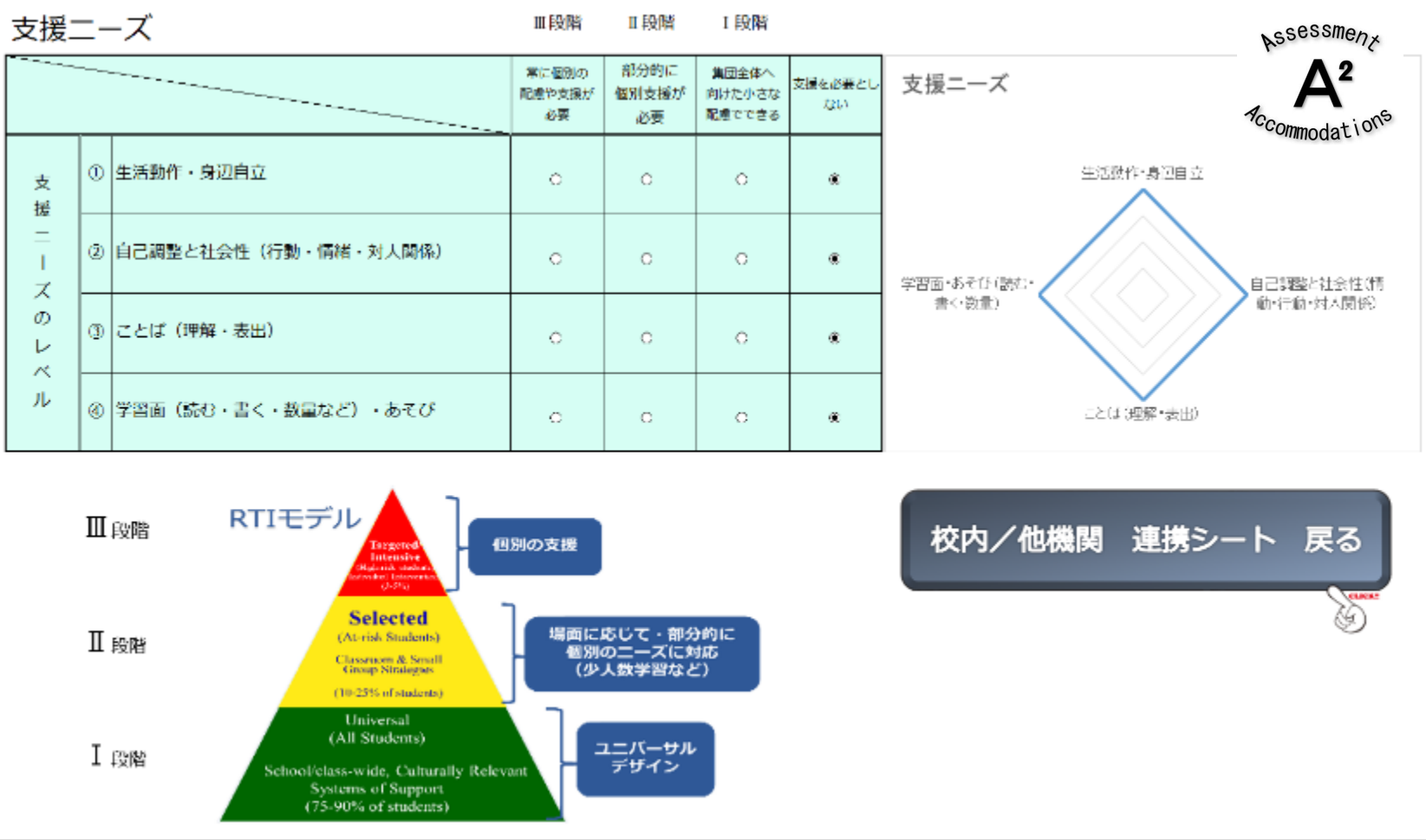
小学校
特別支援学校（小学部）



中学・高校
特別支援学校
(中学・高等部)



⑤　RTIモデルの活用と他機関連携



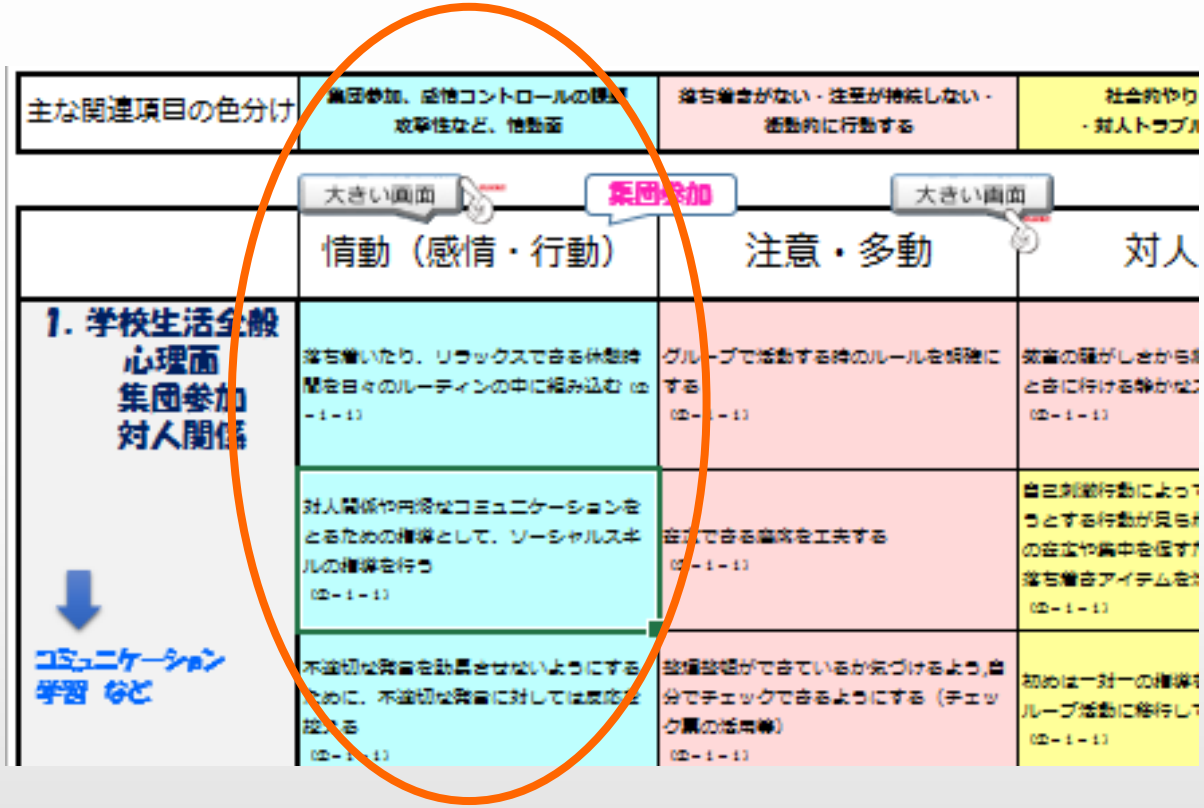
ＲＴＩモデル

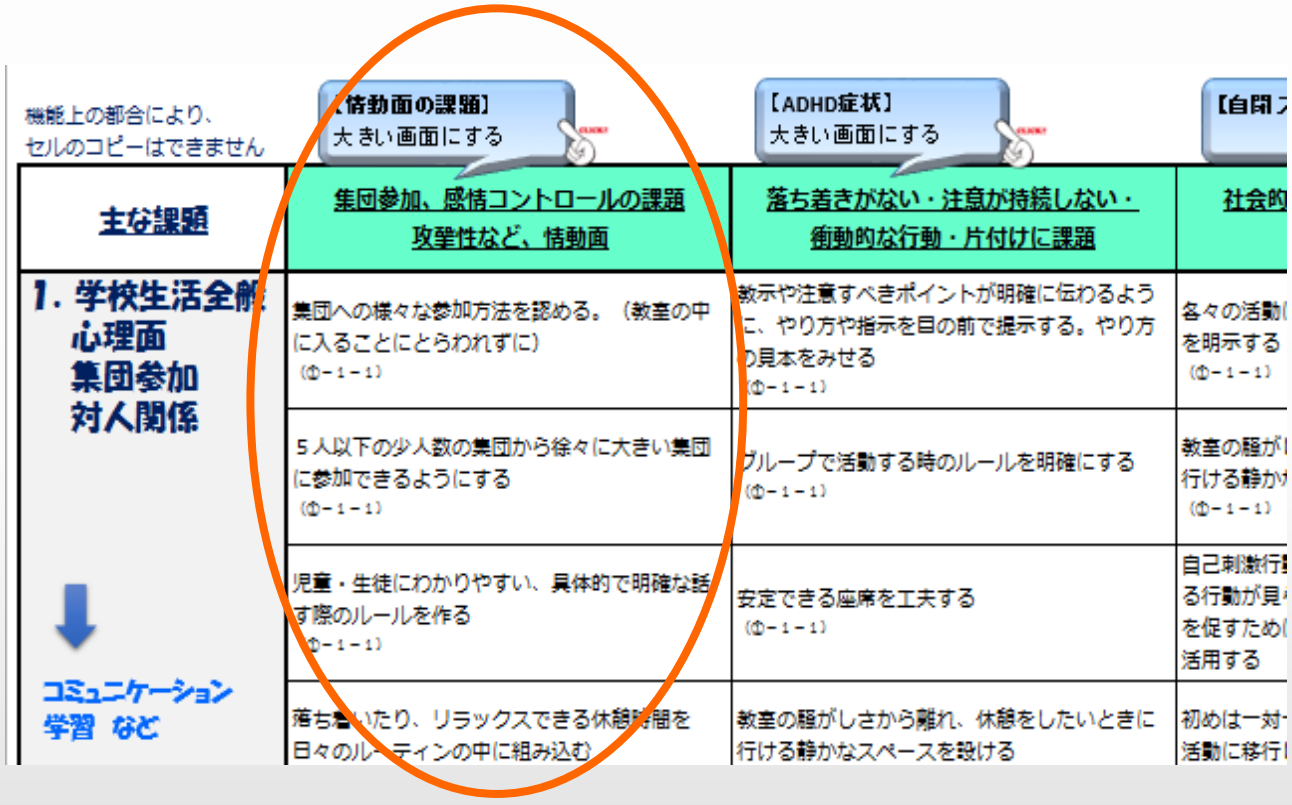
Ⅰ段階：ユニバーサルデザイン
　　全体へ向けた小さな配慮

Ⅱ段階：状況に応じて、部分的に
　　個別の支援が必要

Ⅲ段階：常に個別の支援や配慮・
　　対応が必要
　　（常に援助を要する）

⑥　情動（行動/感情/情緒）面のニーズを考慮





情動面に課題のある対応が難しい子ども　→　事前の合理的配慮が要！

A² 『個別の教育支援計画』ツール

操作方法

A² 『個別の教育支援計画』ツール　特徴

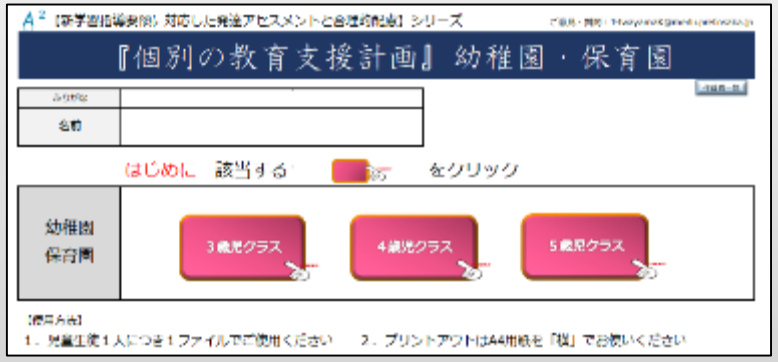
まずは、このページからはじめます

ページ移動は
ボタンクリックで！

CHECK!!

1．名前を記入（様式全体に反映される）
2．所属学年（横軸）、おおよその発達年齢（縦軸）で、該当ボタンをクリック

幼稚園・保育園



小学校・特別支援学校（小学部）

中学・高校
特別支援学校（中学・高等部）

A² 『個別の教育支援計画』ツール　特徴

まずは、このページからはじめます

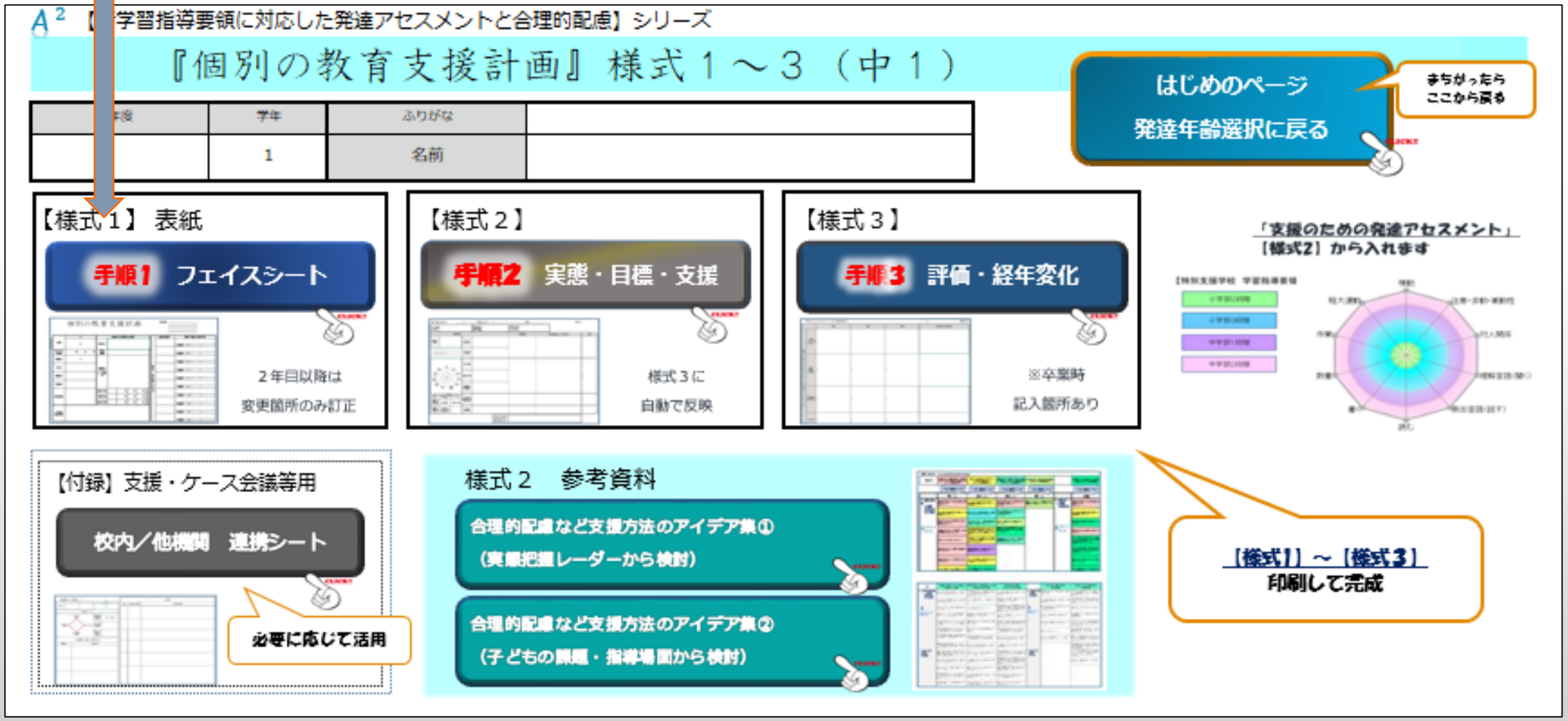
ページ移動は
ボタンクリックで！

CHECK!!

1．名前を記入（様式全体に反映される）
2．所属学年（横軸）、おおよその発達年齢（縦軸）で、該当ボタンをクリック

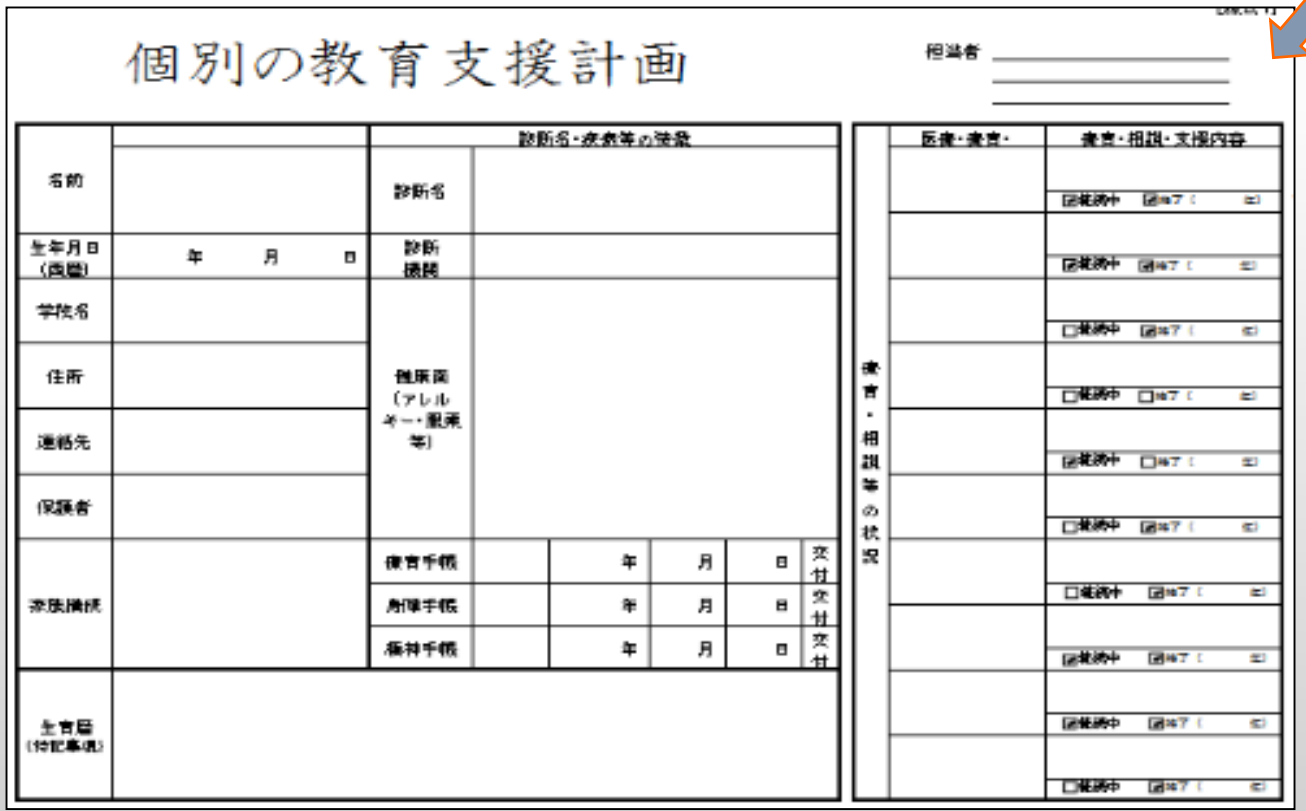
トップページ

ここをクリック



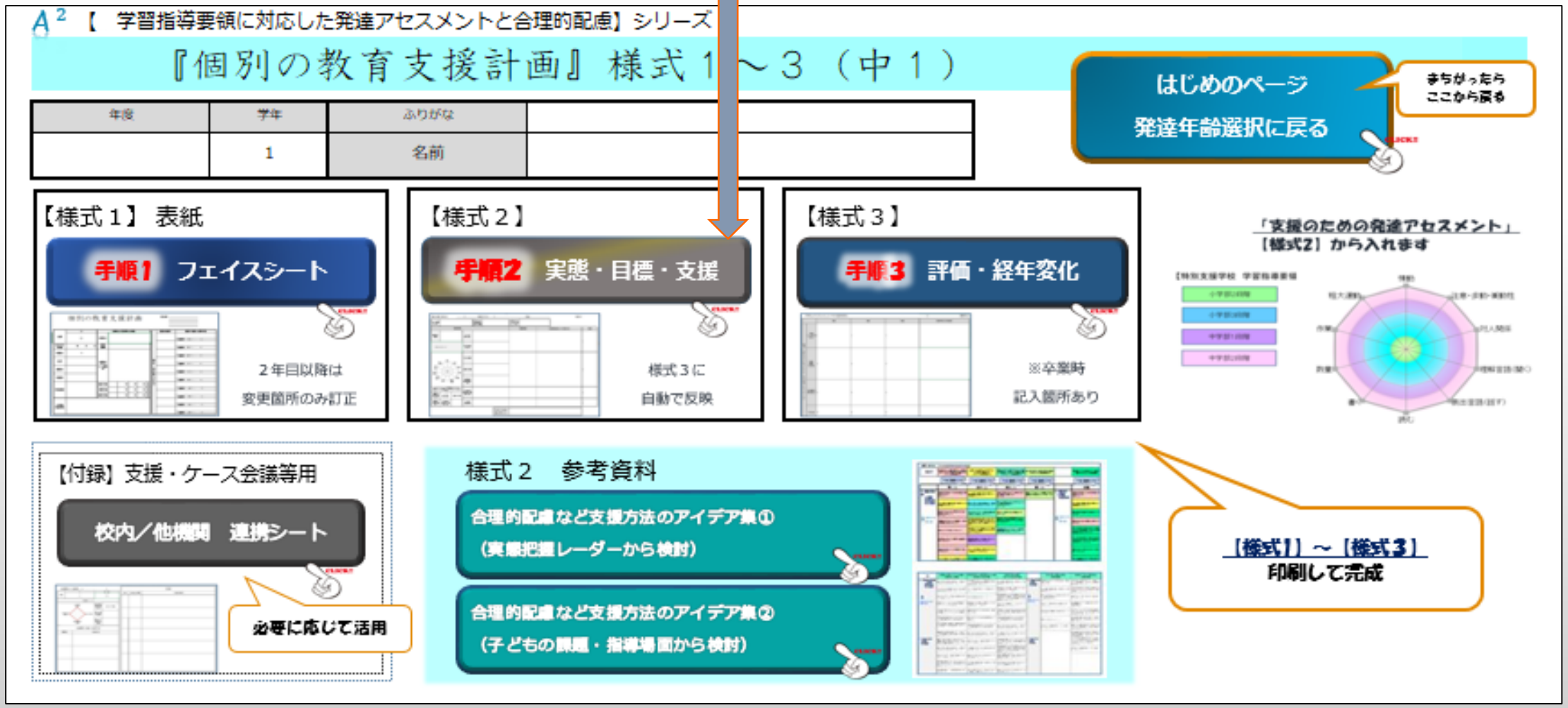
【様式１】フェイスシート

１．フェイスシートに記入
２．記入が済んだら、
　　該当トップページへ戻る

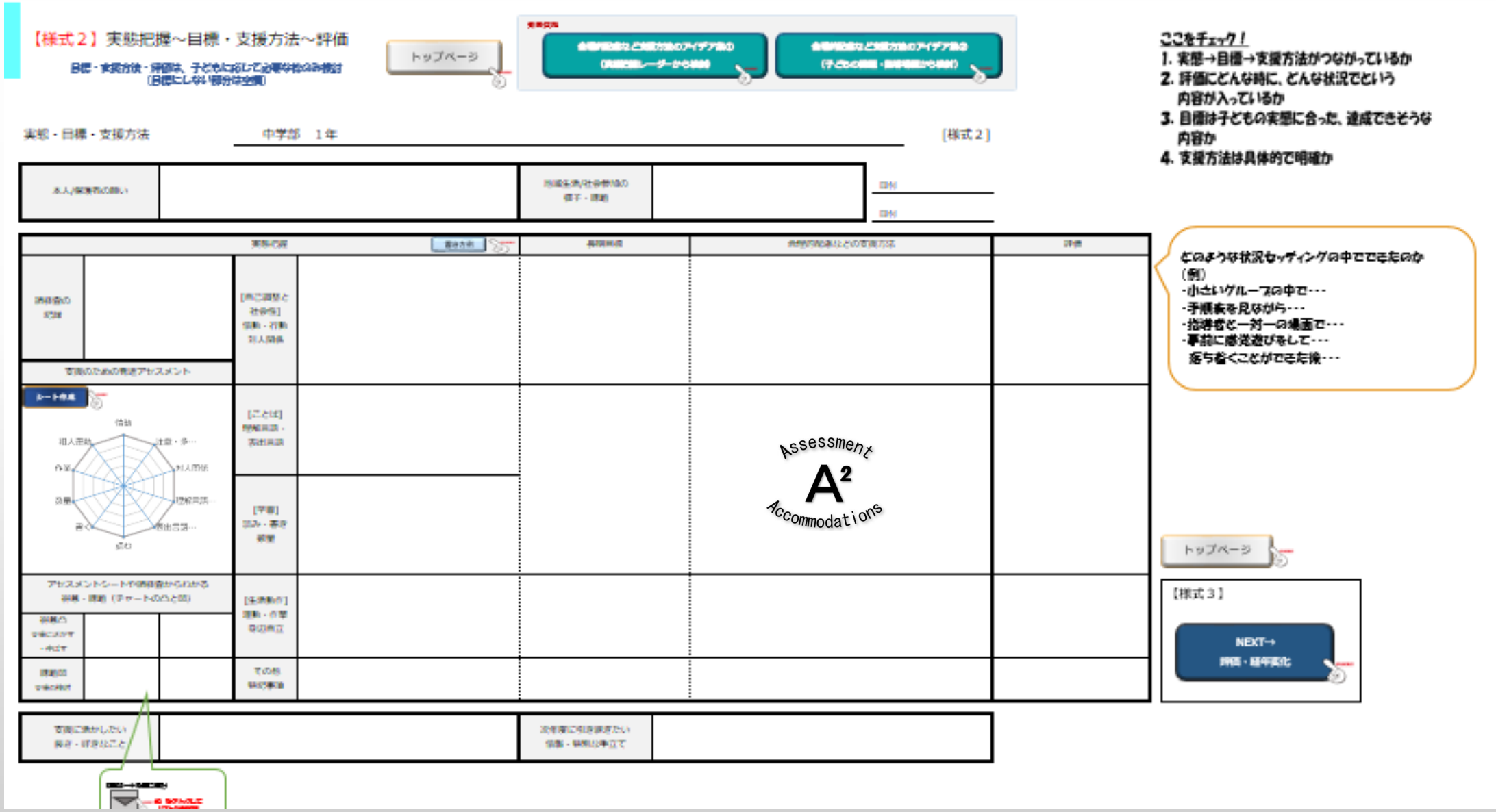


【様式２】実態・目標・支援・評価

ここをクリック



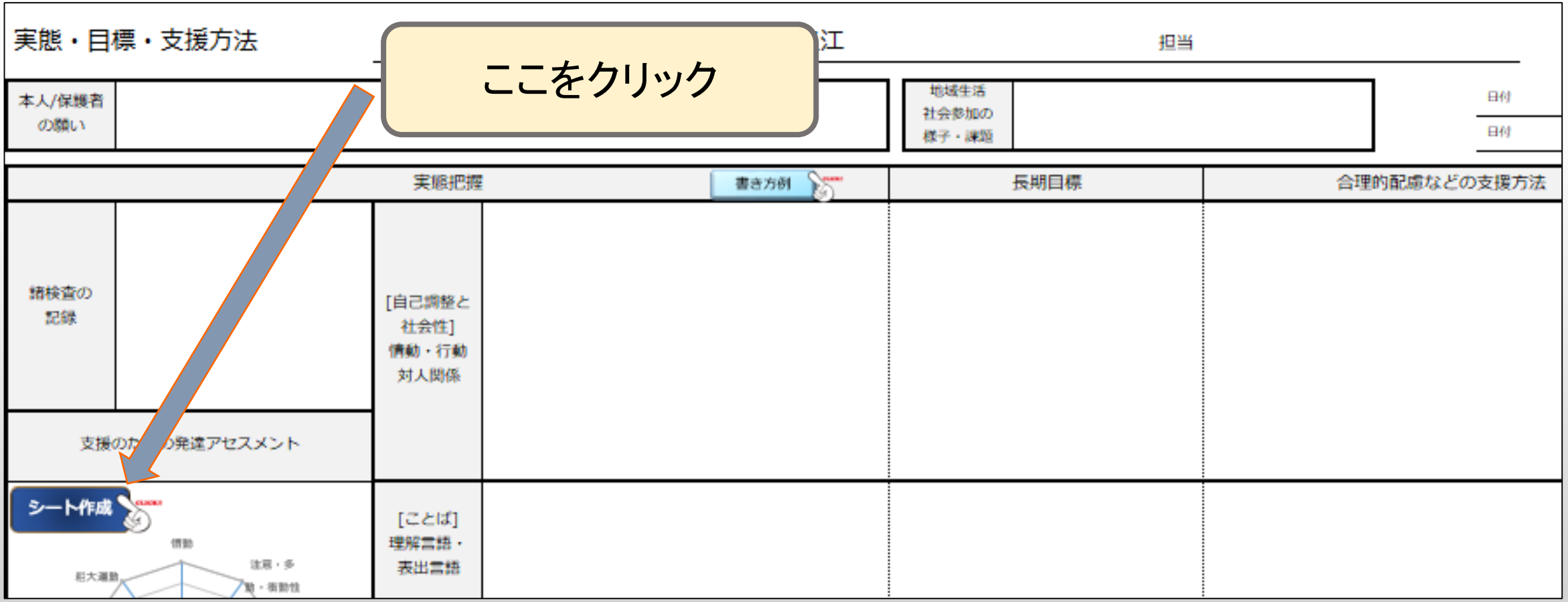
【様式２】実態・目標・支援・評価



【様式２】実態把握を記入

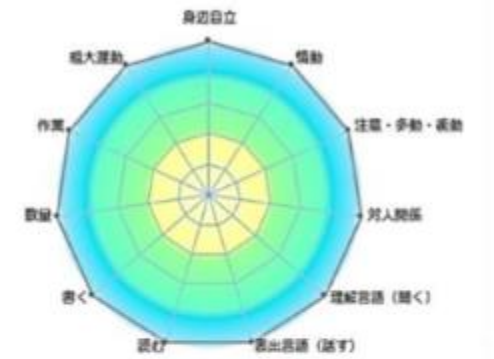
１．①～③を記入（保護者・検査等の情報参考）

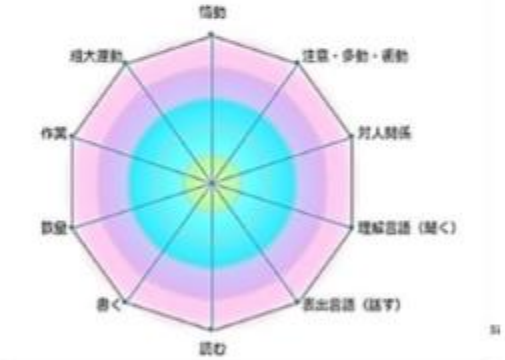
２．<u>支援のための発達アセスメント</u>へ

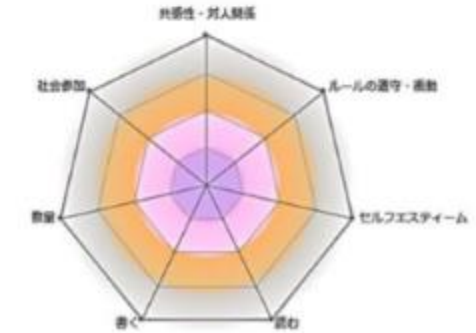


Assessment A² Accommodations

A²『個別の教育支援計画』アセスメントの用語説明







身辺自立
トイレ・着替え・食事など、身辺処理

情動
感情・行動・情緒・集団参加

注意・多動・衝動
注意のコントロール・多動性・衝動性

対人関係
社会性・共感性・集団学習

理解言語（聞く）
集団場面の中で聞く力・言葉の理解

表出言語（話す）
意思を伝えるスキル・集団場面での表出

読む
文字やシンボルからの理解

書く
書字・漢字

数量
算数・量的な知識と理解

作業
微細運動・手と目の協応・手の巧緻性

粗大運動
身体全体を使った動き・協調運動

©A²研究会

A²「支援のための発達アセスメント」やり方

支援のための発達アセスメント（～5歳程度の発達段階用）　【様式２（実態・目標・支援）】　戻る

名前

全ての質問項目にご回答ください
○をクリック！

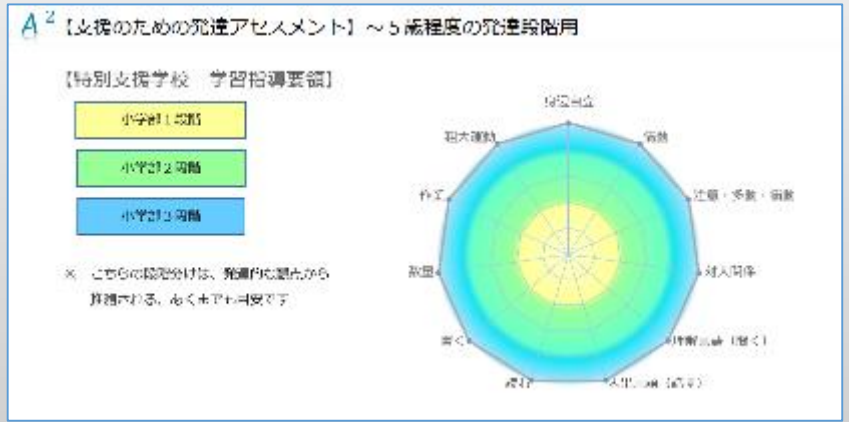
記載した[自立活
(例)です。子ども
検討しましょう

発達のめやす			できる	時々又は部分的にできる	できない	【個別の指導計画】等活用資料 主な区分（例）関連する（自立活動）学習指導要領 特別支援学校	学習指導要領 特別支援学校
身辺自立	～1	① 両手でコップなどの容器を持ち自分で飲む	◉	○	○	4(4),5(3)	小学部1段階
		② スプーンなどを使って自分で食べる	◉	○	○	4(4),5(3)	
	2	③ トイレで便座に座らせると排泄する	◉	○	○	1(1),4(4),5(5)	
		④ 一人で、パンツを脱ぐ・履く	◉	○	○	4(4),5(3)	
	3	⑤ おしっこを事前に大人に知らせる	◉	○	○	3(1)(2),4(1)(4),6(2)	
		⑥ 靴を一人ではく	◉	○	○	4(4),5(3)	学部2段階
	4	⑦ ティッシュを使って自分で鼻をかむ	◉	○	○	1(1),4(4)	
		⑧ お風呂で自分で身体を洗う	◉	○	○	4(4)(5),5(3)	
	5	⑨ 大便後に自分でおしりを拭く	◉	○	○	4(4)(5),5(3)	3段階 小学部
		⑩ 用途に合わせて服を選ぶ	◉	○	○	4(4)(5)	
			合計		20		

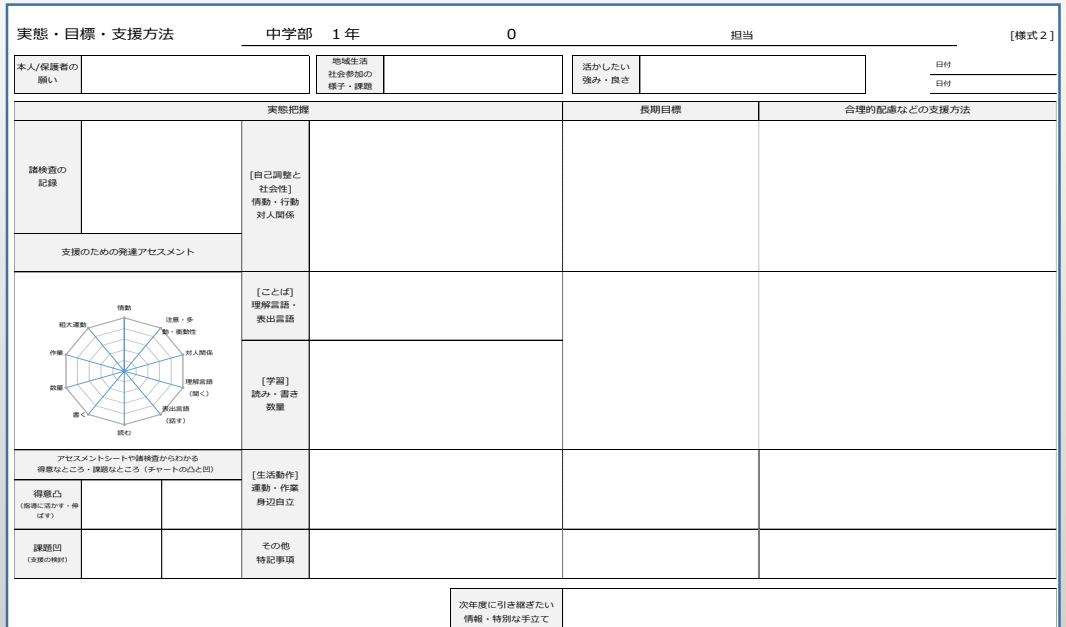
記載した[
(例)です。
検討しまし

発達のめやす			できる	時々又は部分的にできる	できない	【個別の指導計画】等活用資料 主な区分（例）関連する（自立活動）学習指導要領 特別支援学校	学習指導要領 特別支援学校
情動	～1	① 安心感のある大人や活動を探すなど、自分で安心を得ようとする	◉	○	○	2(1)	小学部1段階
		② 親しみのある大人に近寄り、落ち着くことができる	◉	○	○	2(1),3(1)	
	2	③ 好きな活動ができなくて悲しくなった際に「じゃあ、代わりにこっちをしよう」という働きかけで気持ちを切り替えることができる	◉	○	○	2(1)(2),3(3)	
		④ 好きな音楽やクッション・感覚グッズなどで、自分で心地よさを得ようとする	◉	○	○	2(1)(2),3(3)(4)	
	3	⑤ 次の活動について質問するなど、自分で快・不快に関する予測を立てようとする	◉	○	○	2(1)(2),3(3)(4),4(4),6(5)	小学部2段階
		⑥ 少し不安やイライラする場面でも、親しい大人の側へ行くなど、自分なりに気持ちを調節しようとする	◉	○	○	2(1)(2),3(3)(4)	
	4	⑦ 感情的にはなるが、自分の思いを相手に伝え、助けを求める	◉	○	○	2(1)(2),3(3)(4),6(5)	
		⑧ イライラする状況でも、その場を離れて別の活動に取り組むなど、自分なりにシンプルな方法で気持ちを切り替えようとする	◉	○	○	2(1)(2)(3),3(3)(4)	

質問項目をクリック
→自動で様式に反映



【様式２】自動反映



実態・目標・支援方法　中学部　１年　0　担当　[様式２]

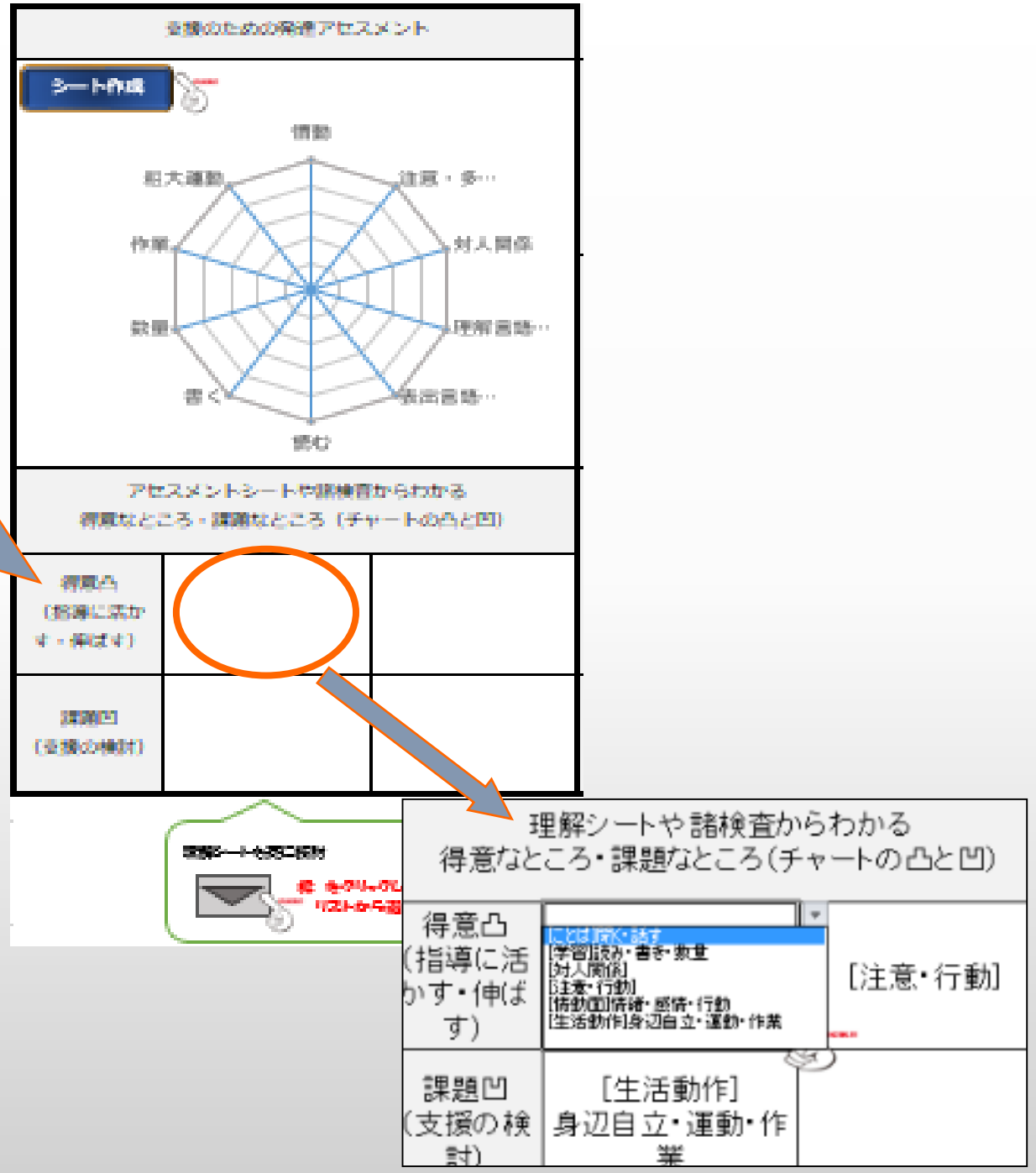
本人/保護者の願い　地域生活社会参加の様子・課題　活かしたい強み・良さ　日付　日付

実態把握				長期目標	合理的配慮などの支援方法
諸検査の記録		[自己調整と社会性] 情動・行動 対人関係			
支援のための発達アセスメント					
		[ことば] 理解言語・表出言語			
		[学習] 読み・書き 数量			
アセスメントシートや諸検査からわかる 得意なところ・課題なところ（チャートの凸と凹）		[生活動作] 運動・作業 身辺自立			
得意凸（指導に活かす・伸ばす）					
課題凹（支援の検討）		その他 特記事項			

次年度に引き継ぎたい情報・特別な手立て

【様式２】へ戻る

- 得意凸と課題凹を選択
  ここを一回クリックすると、
  右上に選択ボタンが出る
  →選択する
  空欄にしたいときは、選択肢の
  一番上または下の空欄をクリック



【様式２】　実態把握を記入

実態把握	書き方例	長期目標	合理的配慮な
諸検査の記録	[自己調整と社会性]情動・行動対人関係		
支援のための発達アセスメント			
作成	[ことば]理解言語・表出言語		
	[学習]読み・書き数量		
アセスメントシートや諸検査からわかる得意・課題（チャートの凸と凹）	[生活動作]運動・作業身辺自立		
得意凸 支援に活かす・伸ばす			
課題凹	その他		

- 箇条書き、簡潔に記入
- 書き方がわからない　→書き方例

資料：実態把握
書き方例

※ここに書かれた
通りの表現で書く
必要はありません

参考資料

実態把握　書き方の例

地域生活・社会参加の様子・課題	例 大人と一緒に地域のお祭りに参加している	地域生活・社会参加の様子・課題	例 ・地域のお祭りに参加している ・少年野球チームに所属している

中学・高校
「地域生活・社会参加」は下方枠内

就学前発達段階（－5歳）		小学校発達段階（5歳－12歳）	
[ことば] 聞く・話す	例 ・2語文で話す ・「ん、ん」と言いながら指差しで伝える ・ことばで呼びかける代わりに突然相手の手を引っ張る	[ことば] 聞く・話す	例 ・家族や親しい人との日常会話は円滑にできる ・話の結論に関連する単語を確実に話しだすことが多い ・順序だてて話し相手に伝えることが苦手 ・語彙が少ない
[学習活動] あそび	例 ・円を描くことができる ・大小を区別して言う事ができる ・電車を見ることが好き ・いつも決まったDVDを見る	[学習活動]	例 ・文字を書くことに時間がかかるが根気強く丁寧に書くことができる ・漢字の読み書きが苦手 ・電車の図鑑を見ることが好き
[対人関係]	例 ・大人との一対一のやり取りができる ・大人の仕事をまねる	[対人関係]	例 ・大人とのコミュニケーションは取れるが、友だちや集団の中ではうまくいかない、対人トラブルになることがある
[注意・行動]	例 ・興味があるものを見つけると、突然走り出してしまう ・遊びへの集中が続かず、いろいろな玩具で次々に遊ぶ ・友だちを叩く・髪を引っ張ることがある	[注意・行動]	例 ・机やロッカーの中が散らかっている ・注目を集めるために、突然大声を出す ・並ぶことができない
[情動面] 情緒・感情・行動	例 ・感情の起伏が激しく、怒ると大きなかんしゃくを起こす ・1人になってすねる ・激しくおでこを叩く自傷がある	[情動面] 情緒・感情・行動	例 ・ちょっとしたきっかけですぐに泣いてしまう、気持ちを切り替えるのに時間がかかる ・突然に大声を上げて怒りだすことがある ・友だちのちょっとしたことばに、直ぐに感情的になる
[生活動作] 身辺自立・運動・作業	例 ・トイレはおおむね自立しているが、大便をふき取る際に手助けが必要 ・履り皆でこぼさずに食事をする	[生活動作] 身辺自立・運動・作業	例 ・トイレはおおむね自立しているが、大便をふき取る際に手助けが必要 ・履り皆でこぼさずに食事をする
その他 特記事項	例 ・口を大きく開くチックのような症状が見られる	その他 特記事項	例 ・大きな集団が苦手で、体育様での集会などの活動に参加することができない ・口を大きく開くチックのような症状が見られる

中学校・高校発達段階（13歳－）	
学習	例 ・ことばの知識は豊富であるが、意味理解が急激的である ・数学に課題があり、で掛け算の習得ができていない ・読み書きが苦手、英語の習得が難しい ・家庭では円滑にコミュニケーションが取れるが、学校でことばを発することが難しい。
自己調整と社会性 行動・情動・社会性	例 ・片付けが苦手 ・集団の中でのコミュニケーションがうまくとれず、一人で行動することが多い ・不安が強い ・緊張が強く、疲れやすい ・イライラしていることが多く、指導者や友だちへの暴言がある
地域生活・社会参加	例 ・郵活動に所属している（パソコン郵） ・好きな電車のイベントに自分で参加している ・カードゲームの大会に参加している
その他 特記事項	例 過去に万引きで何度も警察に補導されている

次年度に引き継ぎたい情報・特別な手立て	例 パニックを起こす前のサインとして「～悪い手」「血出たら痛い」などの発言が見られる。

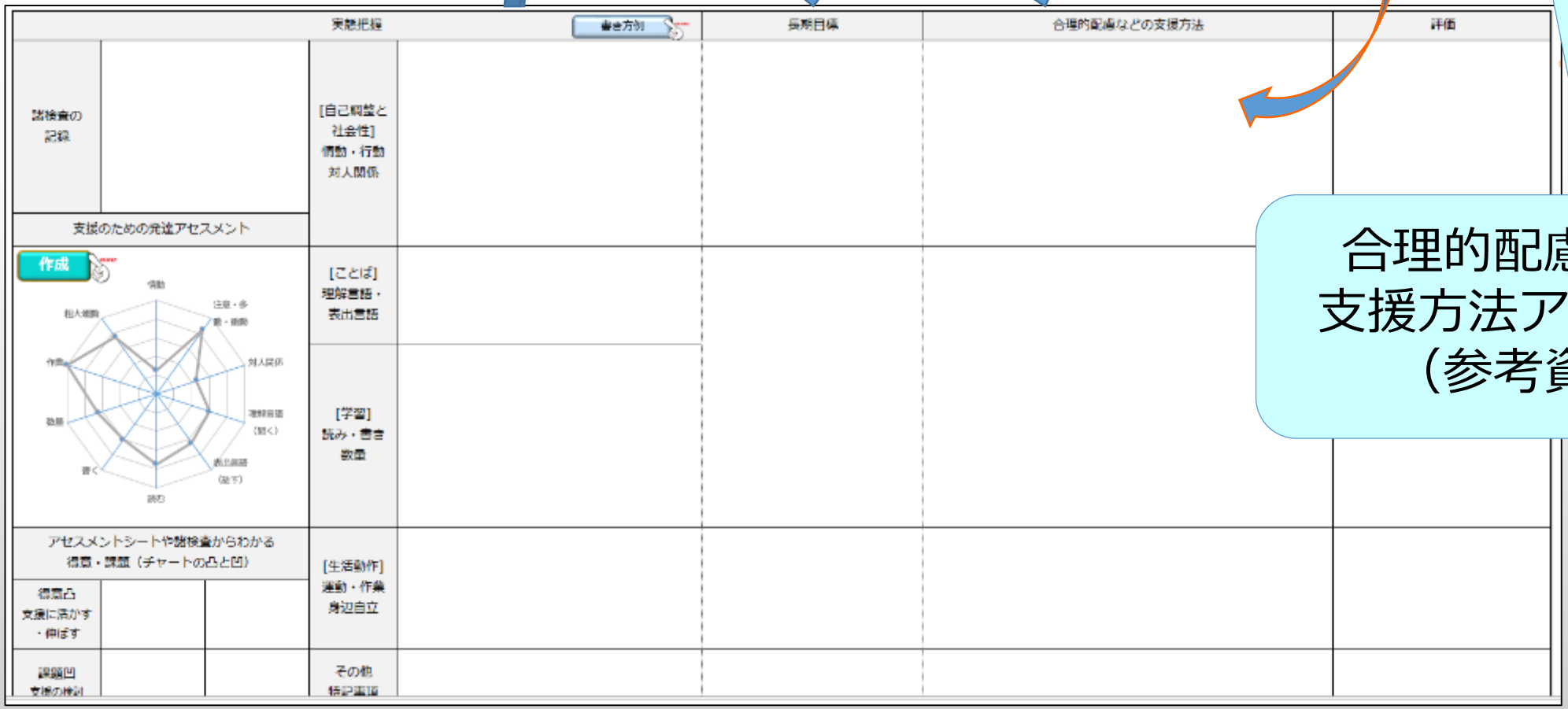
【様式２】実態・目標・支援方法を検討

横の関連性を大切に

参考資料

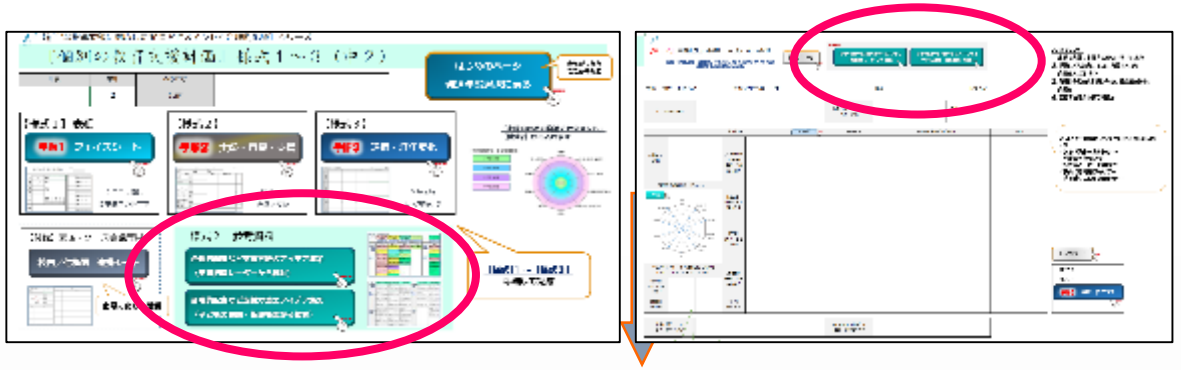
合理的配慮など支援方法のアイデア集①
（実態把握レーダーから検討）

合理的配慮など支援方法のアイデア集②
（子どもの課題・指導場面から検討）



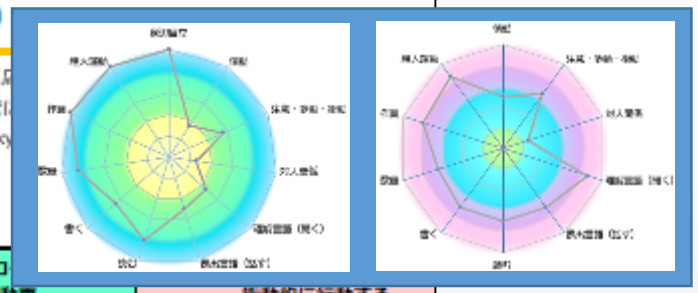
合理的配慮など、
支援方法アイディア
（参考資料）

表の見方
縦軸（指導場面）
横軸（特性）で見る



① 合理的配慮など支援方法アイディアリスト（実態把握レーダーから）

参考：（）合理的配慮の観点　子どもの実態・状況に応
※本様式においては、合理的配慮の観点について明確に
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chuky



関連項目の色分け	集団参加、感情コントロ 攻撃性など、情動面	 衝動的に行動する
	大きい画面 → 集団参加	大き
	情動（感情・行動）	注意・多動
1. 学校生活全般 心理面 集団参加 対人関係	落ち着いたり、リラックスできる休憩時間を日々のルーティンの中に組み込む（①－1－1）	グループで活動する時のルールを明 する （①－1－1）
	対人関係や円滑なコミュニケーションをとるための指導として、ソーシャルスキルの指導を行う （①－1－1）	安定できる座席を工夫する （①－1－1）
コミュニケーション 学習　など	不適切な発言を助長させないようにするために、不適切な発言に対しては反応を控える （①－1－1）	整理整頓ができているか気づける 自分でチェックできるようにする （チェック票の活用等） （①－1－1）

② 合理的配慮など支援方法アイディアリスト（子どもの課題・指導場面から）

参考：（）合理的配慮の観点　子どもの実態
※本様式においては、合理的配慮の観点に
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/ch

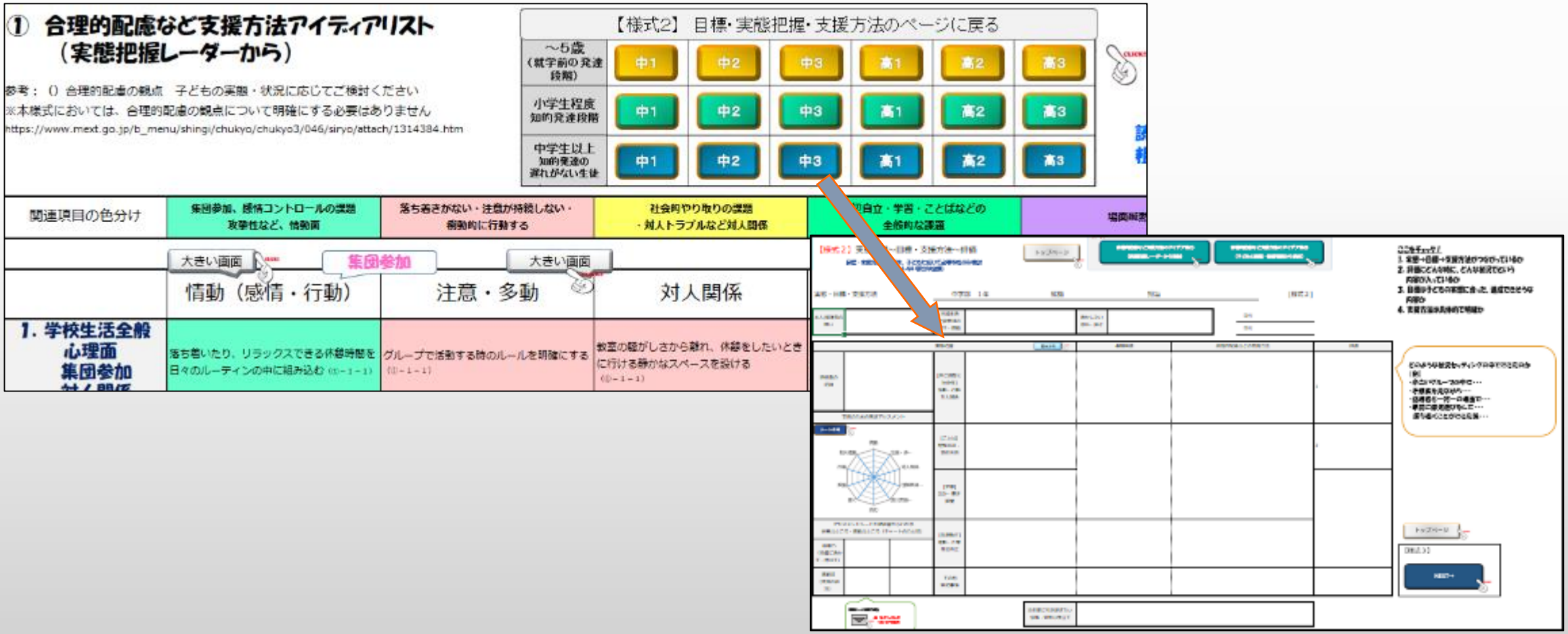
診断名・行動特性

【情動面の課題】大きい画面にする　　【ADHD症状】大きい画面にする

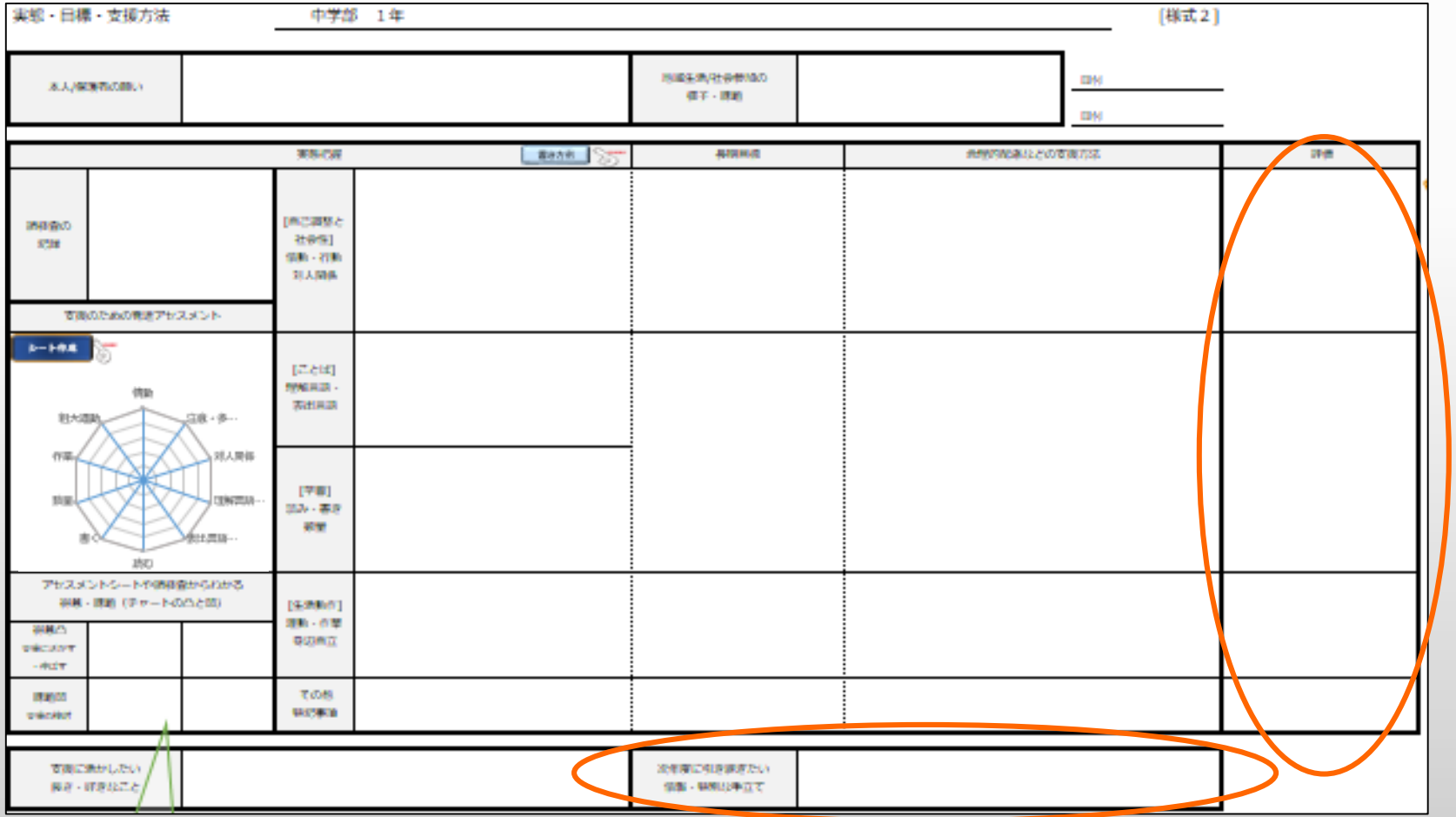
課題	集団参加、感情コントロールの課題 攻撃性など、情動面	落ち着きがない・注意が持続しな 衝動的な行動・片付けに課題
1. 学校生活全般 心理面 集団参加 対人関係	集団への様々な参加方法を認める。（教室の中に入ることにとらわれずに） （①－1－1）	指示や注意すべきポイントが明確に伝わるよ り方や指示を目の前で提示する。やり方の見 る （①－1－1）
	5人以下の少人数の集団から徐々に大きい集団に参加できるようにする （①－1－1）	グループで活動する時のルールを明確にする （①－1－1）
コミュニケーション	生徒にわかりやすい、具体的で明確な話す際のルールを作る （①－1－1）	安定できる座席を工夫する （①－1－1）
	落ち着いたり、リラックスできる休憩時間を日々のルーティンの中に組み込む （①－1－1）	教室の騒がしさから離れ、休憩をしたいとき 静かなスペースを設ける （①－1－1）

参考資料 から【様式２】へ戻る

- 所属学年（横軸）と発達段階を選択、トップページへ戻る



- 箇条書きで簡潔に書く
- どのような条件・セッティング（３人程度の少人数でなど）でできたのかを記入する

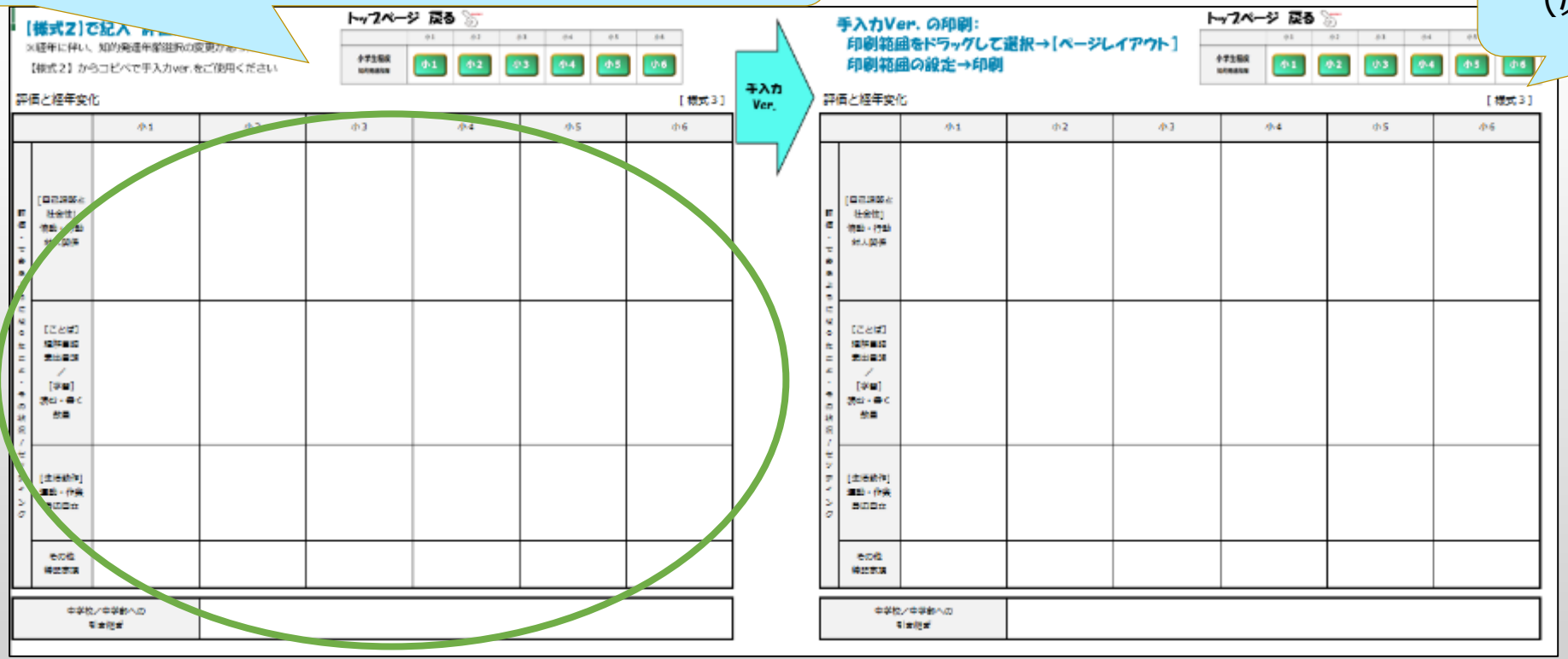


【様式３】に評価・経年変化を確認

- 卒業時は、引継ぎ欄を記入
- 発達段階選択の変更があった場合は、コピペで手入力Ver.使用

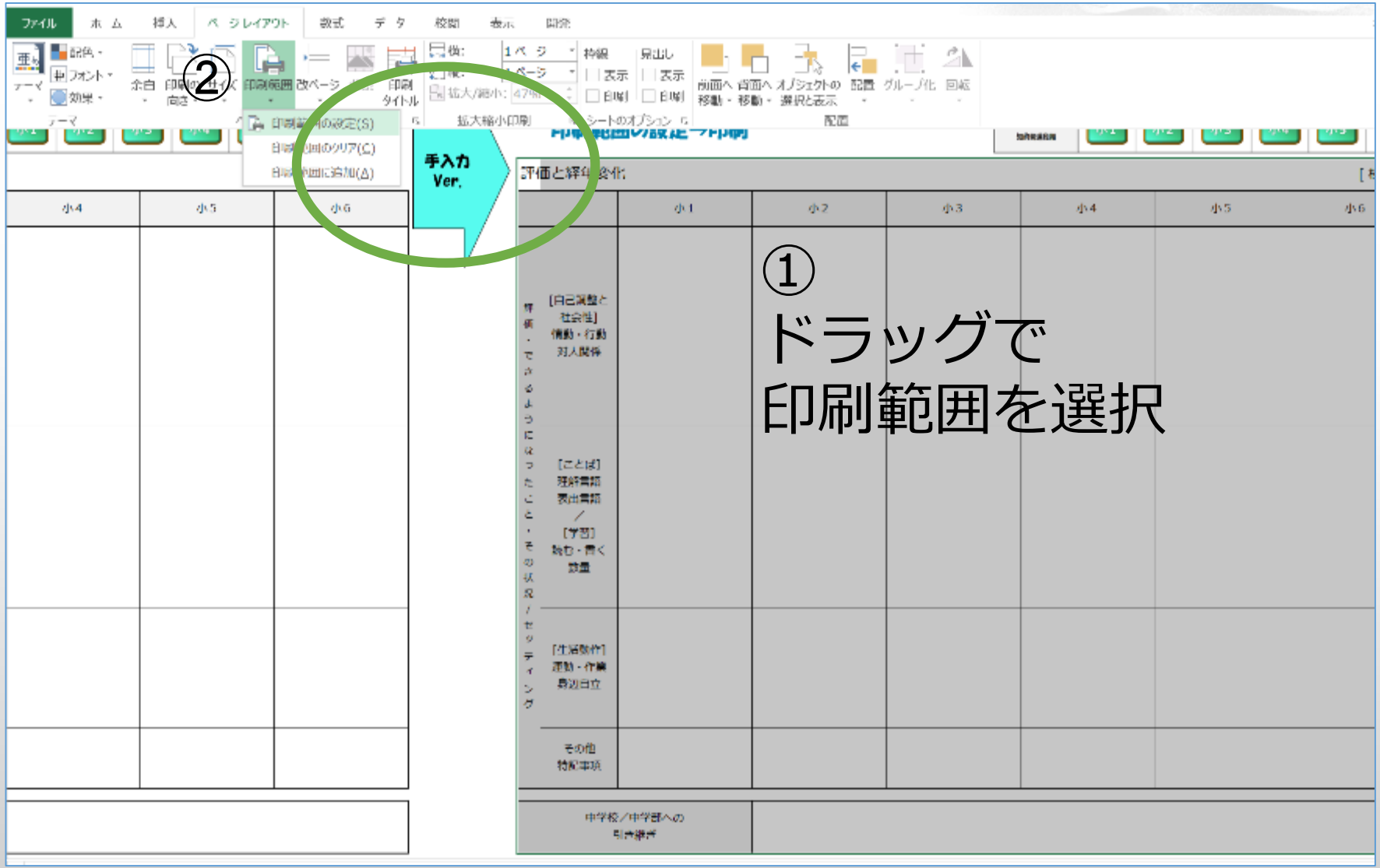
【様式２】から自動的に反映
基本はこちらを使用　→ファイルから印刷

手入力Ver.
（必要に応じて）



手入力Ver.のみ
印刷設定必要

【様式３】手入力Ver.を使用・印刷する場合

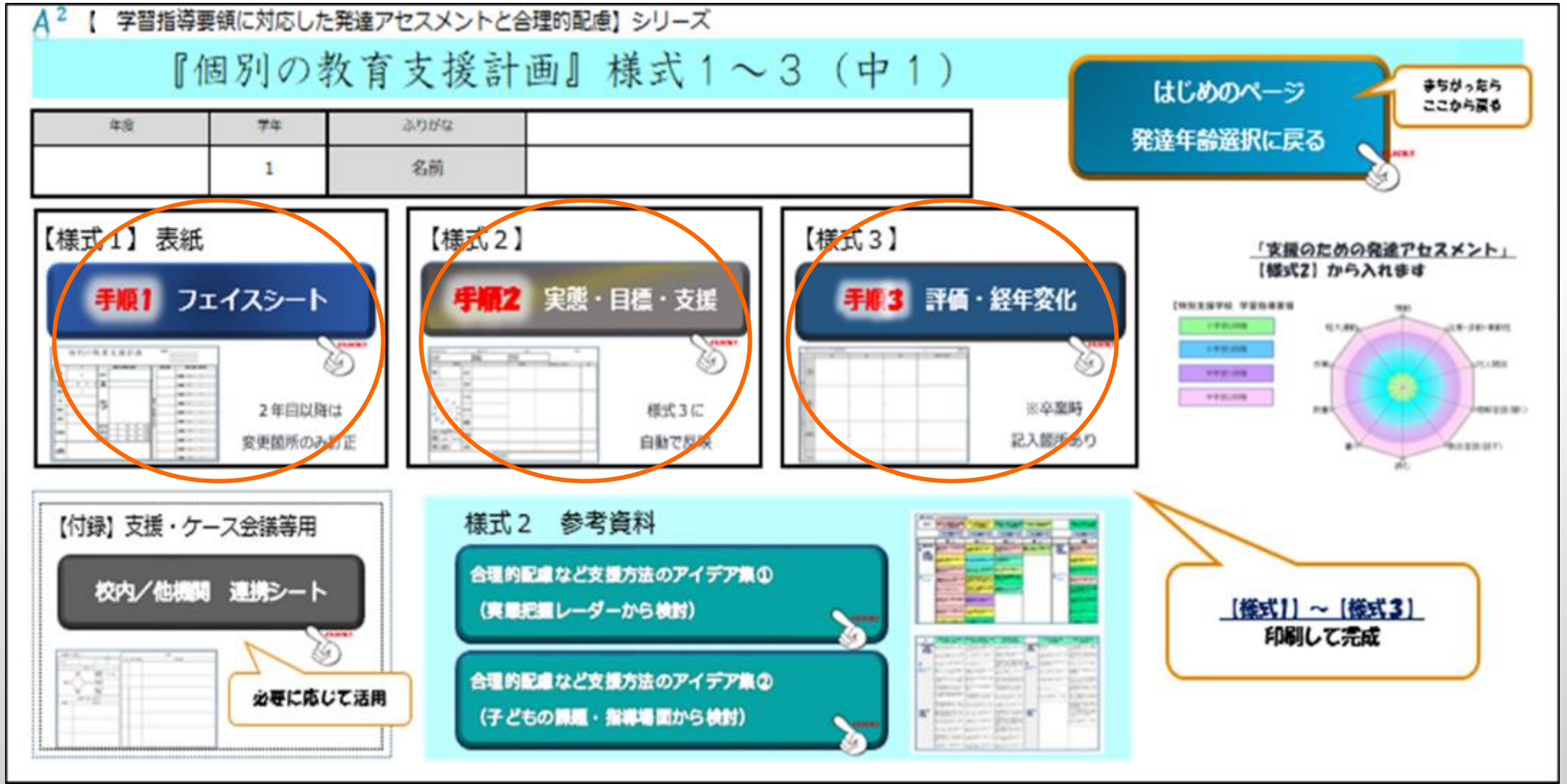


①印刷範囲を選択

②ページレイアウト
→印刷範囲の設定
→ファイルから印刷

【様式１】～【様式３】を印刷　活用へ

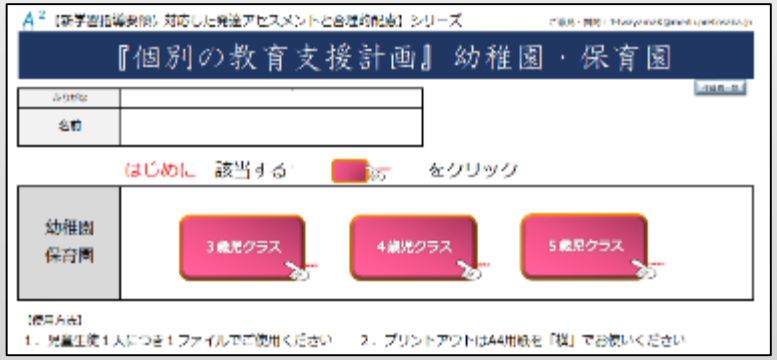
シートごとに印刷　※一括印刷はできません



もしページを間違ったら・・・

どの年齢のトップページでもOK！
このボタンがあります

幼稚園・保育園



小学校・特別支援学校（小学部）

中学・高校
特別支援学校（中学・高等部）

【付録】　校内／他機関連携シート

- 校内体制・ケース会議・他機関連携などで活用

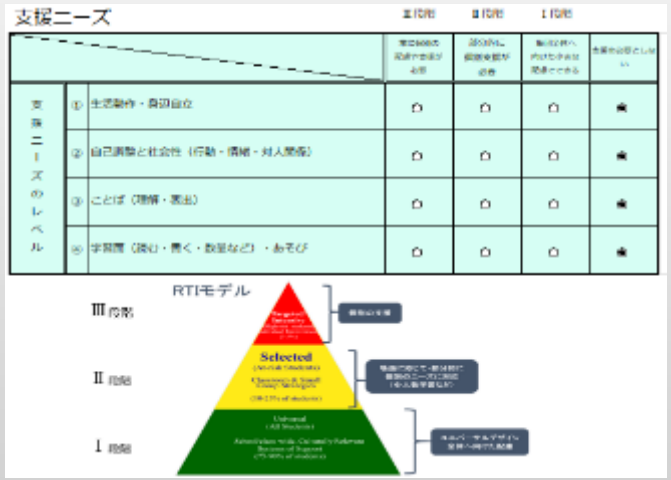
ここをクリック

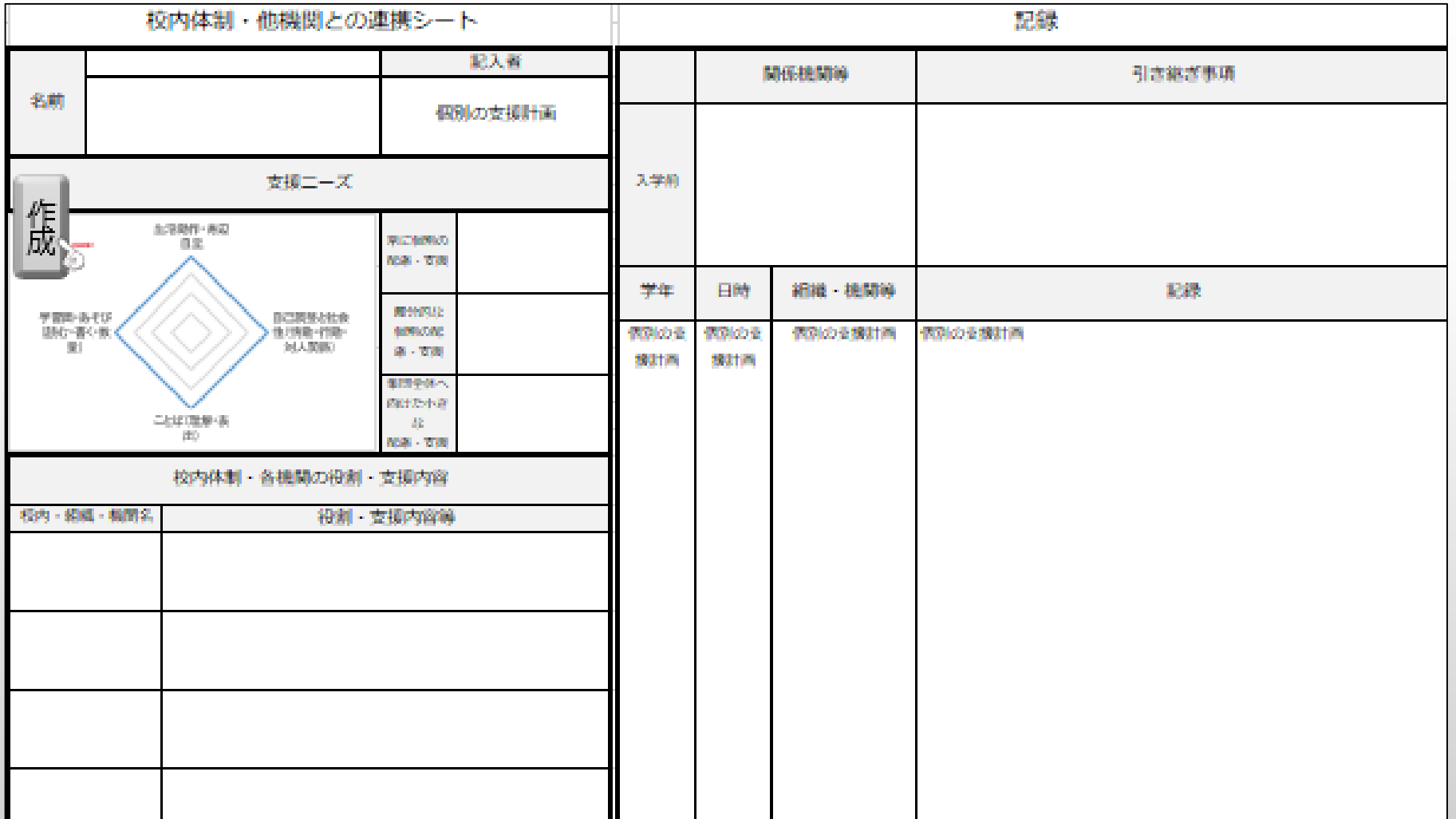
【付録】　校内／他機関連携シート

校内体制・ケース会議・他機関連携などで活用

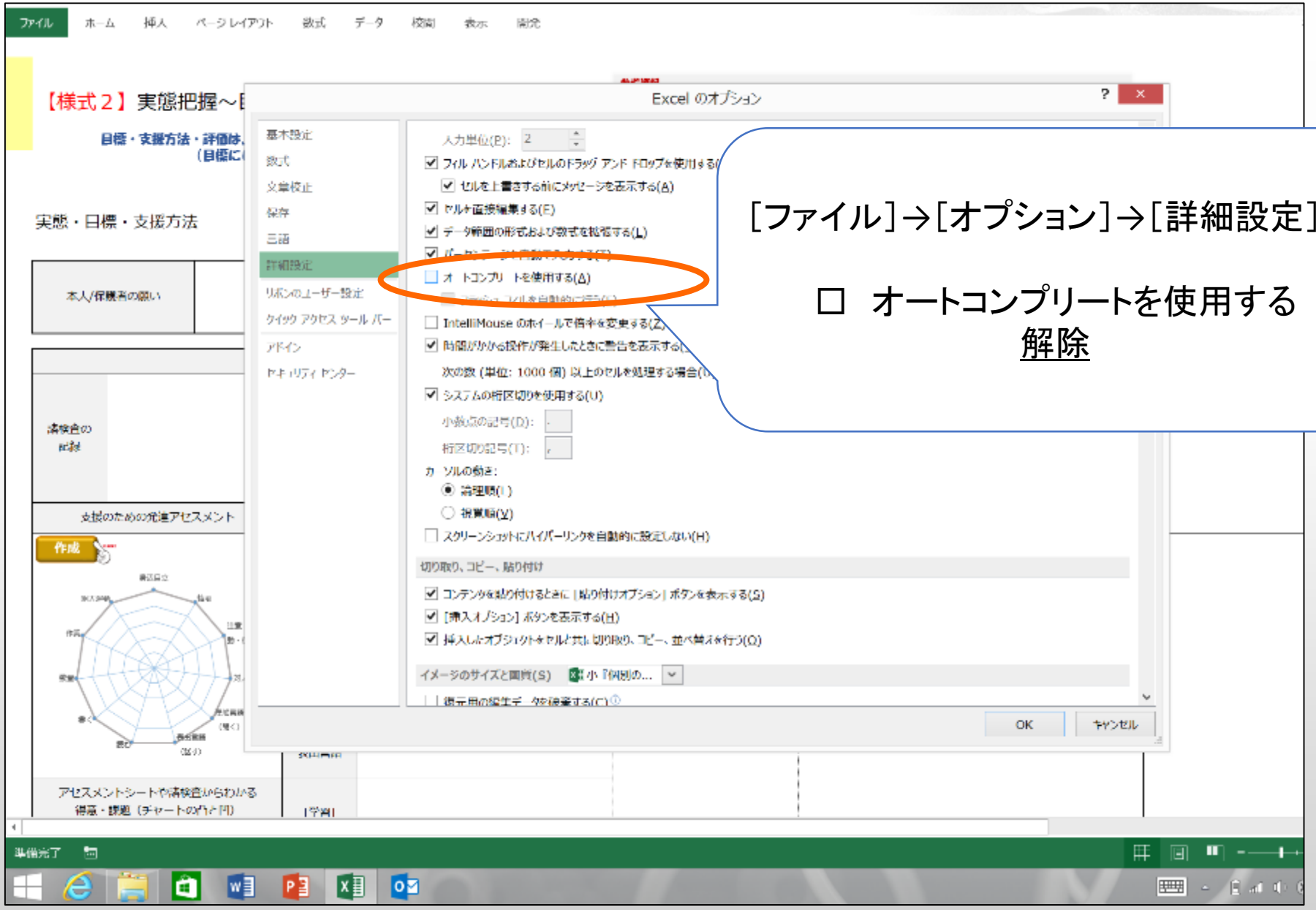
１．支援ニーズシートの作成

ここをクリック





その他　Excelの予測変換機能を解除したいとき



編集一覧

【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』ツール Ver. 1.3

監修	佐藤　克敏	（京都教育大学教授）
	渡辺　実	（花園大学教授）
	南　晃二	（大阪府立住之江支援学校校長）
アドバイザー	Victoria Tarango	（LADC教授）
編集	A² 研究会（窓口：岩山力イナ）	
協力	大阪府教育委員会　支援教育地域支援整備事業	
	大阪府立支援学校	
	大阪市内幼稚園・小中学校・高校	

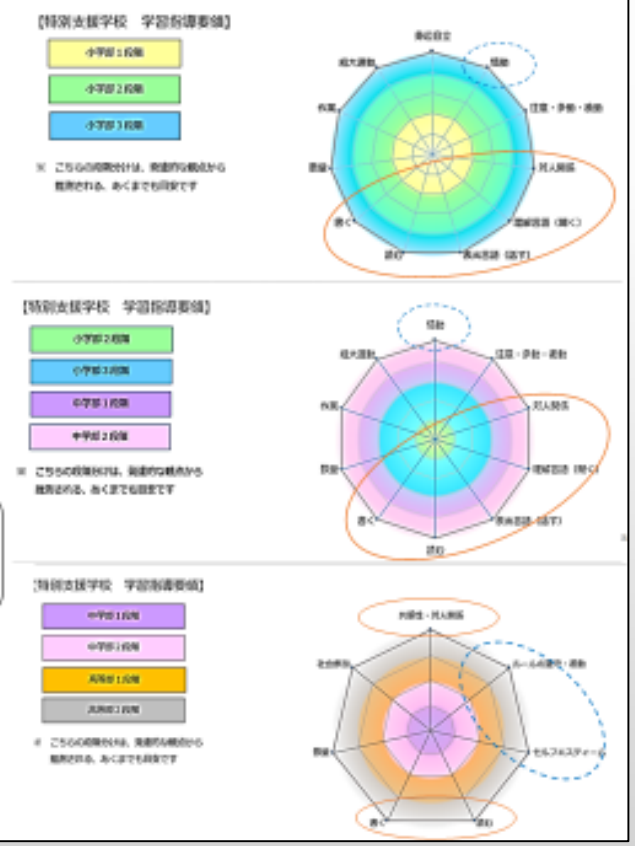
イースト・ロサンゼルス大学兼任
（2022現在）

カリキュラムマネジメントへのＡ²の活用

教科ごと　学習指導要領の段階判定

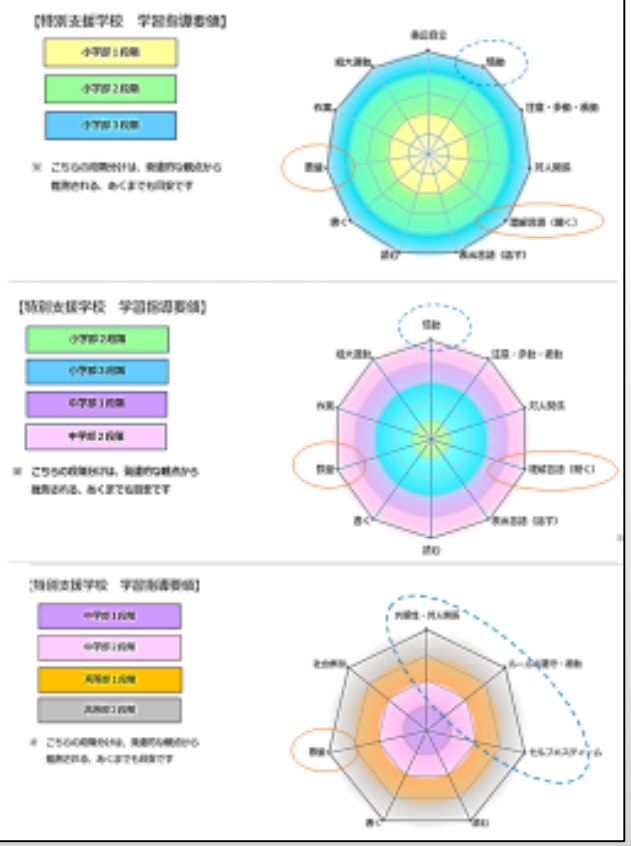
国語

- 理解言語［聞く］
- 表出言語［話す］
- 読む
- 書く
- 対人関係
- （情動）



算数・数学

- 理解言語［聞く］
- 数量
- （情動）



©A²研究会

A²『個別の教育支援計画』ツール

・お問い合わせ:T-IwayamaK@medu.pref.osaka.jp

岩山カイナ（A²研究会　事務局）

アドレスを直接メールに打ち込んでください
（リンクに不備）

引用・転載の際は、上記アドレスまでお知らせください
著作物の無断複製・改変などの行為は、著作権法の例外を除き禁止されています